

福島県文化財センター白河館
年報 ～令和元年度実績～

公益財団法人福島県文化振興財団

発 刊 に よ せ て

「見て・触れて・考え・学ぶ体験型フィールドミュージアム」として2001（平成13）年7月にオープンした福島県文化財センター白河館（愛称「まほろん」）は、本年の7月で19年を経過いたしました。本書は、19年目の取り組みとして実施した2019（令和元）年度の管理運営実績を総括するものです。

2019（令和元）年度は、5年間に及ぶ第4期指定管理期間の初年度であり、新たに出土文化財の保存処理等に関する業務が加わりました。これに伴い、保存科学を専門とする職員を白河館に配置し、木質遺物や金属質遺物等の劣化防止・保存処理はもちろん、保存処理後の資料の経過観察や、収蔵庫環境の点検等の精度を向上させることができました。

また、2019（令和元）年度は、改定された文化財保護法が新たに施行された年でもあり、文化財の保存と活用に関する地方自治体の役割が増大する中、不安と悩みを抱える市町村どうしが同じ課題を検討するという、新たなタイプの文化財研修にも着手いたしました。

企画展としては、学校による団体利用が多い春季に「子どものための特集展」を開催しました。解説文をいっさい配置せず、展示室を「見て・触れて・考え・学ぶ」教室として活用していただく試みでした。「時を測る—縄文・弥生時代の年代—」では過去5か年にわたって実施した放射性炭素年代測定と炭素・窒素安定同位体比分析の研究結果を公開しました。また、「渦文—時を超える文様—」では縄文時代から現代まで繰り返し登場する渦巻文様にスポットをあてました。そして冬季に実施した「ふくしま鉄ものがたり—鉄滓の山から読み解く歴史—」は、収蔵している膨大な製鉄関連資料を体系的に意義付けするという当館ならではの試みでした。

しかしながら、当館の利用者数は、一昨年度に比べると大幅な減少となりました。補助金削減にともなう県内小学校の利用激減に加え、台風19号や感染症拡大などの要因が重なった結果であると分析しております。特に、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、予定していた行事を中止せざるを得なくなったケースもありました。

白河館は現在、感染症拡大防止対策を講じながら、開館20年目の歩みを進めております。このような状況下にあっても、文化財を未来につなぐという私たちの使命はもちろん変わりません。職員一同、これからもこれまで以上に鋭意努力する所存ですので、皆様には、変わらぬご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2020年12月

公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館
館 長 菊 池 徹 夫



指定文化財展「渦文一時を超える文様―



「まほろん感謝デー」のひとつま

目 次

第1章 白河館の概要		
1 白河館の業務	1	
2 白河館の沿革	1	
3 令和元年度の主な行事	2	
4 災害等の影響	2	
第2章 管理業務の実施状況及び利用状況		
1 利用状況	3	
1. 利用者数	3	
2. 入館者数の内訳と傾向	3	
2 維持管理に関する業務	5	
1. 建築物・設備・環境衛生・ 外構等保守管理業務	5	
2. 施設・設備等の修繕状況	5	
3. 備品・物品管理業務	5	
3 文化財の収蔵・保管に関する業務	6	
1. 収蔵資料	6	
2. 資料貸し出し	6	
3. 写真掲載等承認	6	
4. 資料閲覧	7	
4 文化財の活用に関する業務	8	
1. 常設展示	8	
2. 企画展示	10	
3. 講演会等	17	
4. 体験学習・イベント	19	
5 文化財に関する情報発信	23	
1. ホームページによる情報発信	23	
2. データベースによる情報提供	23	
3. まほろん通信の発行	23	
6 文化財に関する研修及び技術支援	24	
1. 概要	24	
2. 研修実施状況	24	
3. 技術支援状況	26	
7 文化財の活用に関する調査研究	26	
1. 文化財の調査	26	
2. 体験学習における試み	26	
3. 文化財等に関する情報収集	26	
4. 研究紀要	26	
8 出土文化財の保存処理	26	
1. 劣化防止等業務	26	
2. 保存処理業務	27	
3. 分類・データベース入力業務	27	
9 ボランティア活動の支援	27	
1. 募集	27	
2. 登録	27	
3. 活動内容	27	
4. 支援体制	27	
10 その他	28	
1. 年報の発行	28	
2. 運営協議会の開催	28	
3. 博物館実習	28	
4. 被災ミュージアム再興事業	28	
5. 他機関との連携	28	
第3章 令和元年度の組織と管理運営費		
1 組織	30	
2 管理運営費	30	
第4章 白河館施設の概要	31	
第5章 白河館の条例・規則		
1 福島県文化財センター白河館条例	33	
2 福島県文化財センター白河館条例 施行規則	33	
白河館の利用案内	34	

第1章 白河館の概要

1 白河館の業務

福島県文化財センター白河館（愛称「まほろん」。以下「白河館」と表記する。）は、文化財等を保管・活用することによって県民の文化の振興に資するため福島県が設置した文化施設であり、平成13年7月に開館した。

白河館は、福島県教育委員会が発掘調査した遺跡で出土した遺物や記録写真、図面などの資料を収蔵・保管し、それを展示・体験学習等に活用すると共に、文化財を担当する市町村職員等を対象とする研修、文化財に関する情報発信等の役割を担っている。

福島県は、開館から平成17年度まで、財団法人福島県文化振興事業団に館の管理運営業務を委託していたが、平成18年度から指定管理者制度を導入し、管理運営業務を行う法人等を広く公募することにした。第1期（平成18年度から平成20年度まで）は財団法人福島県文化振興事業団が指定管理者に選定され、以降、第4期の現在に至るまで、同財団（平成26年4月に現名称に変更）が管理業務を担っている。

条例に定める館の業務は、以下のとおりである。

- 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- 白河館の維持補修及び管理に関すること。
- 上記の他に、福島県教育委員会が別に定める業務。

なお、令和元年度からは、出土文化財の保存処理等に関する業務が追加されている。

白河館は貴重な文化財を様々な形で活用する施設であり、文化財の復元研究や体験学習活動を全国に先駆けて実施してきた。また、「遺跡から学ぶ自然と人間のかかわり」をメインテーマとして、“見て・触れて・考え・学ぶ”体験型ミュージアムを目指している。

2 白河館の沿革

平成6年度

福島県文化財保護審議会が、「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年4月1日

福島県が財団法人福島県文化振興事業団に管理運営を委託

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成18年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が財団法人福島県文化振興事業団に3か年の管理運営を委託（平成21年3月31日まで）

平成19年4月14日 入館者20万人到達

平成21年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が財団法人福島県文化振興事業団に5か年の管理運営を委託（平成26年3月31日まで）

平成22年4月25日 入館者30万人到達

平成22年9月10日

開館以来館長を務めた藤本強館長が急逝。平成23年3月31日まで、館長職を福島県文化振興事業団富田孝志理事長が兼務

平成23年3月11日
東日本大震災発生。館内に被災箇所あり。4月30日まで臨時休館

平成23年4月1日 菊池徹夫新館長就任

平成23年5月1日
震災被害により使用できなくなった一般収蔵庫及び野外展示施設を除き、再開館

平成24年4月15日
野外展示施設修繕完了、使用を再開

平成24年5月3日
一般収蔵庫修繕完了、使用を再開

平成24年5月19日
開館10周年記念事業を実施

平成26年2月8日 入館者40万人到達

平成26年4月1日
「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が公益財団法人福島県文化振興財団に5か年の管理運営を委託（平成31年3月31日まで）

平成27年12月5日 入館者45万人到達

平成28年9月25日
開館15周年記念事業を実施

平成29年9月2日 入館者50万人到達

平成31年4月1日
「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が公益財団法人福島県文化振興財団に5か年の管理運営を委託（令和6年3月31日まで）

3 令和元年度の主な行事

平成31年4月16日～令和元年5月12日
特集展「子どもたちのための特集展」

平成31年4月27日～令和元年5月6日
GWまほろん特別体験

令和元年6月15日～8月25日
収蔵資料展「時を測る―縄文・弥生時代の年代」

令和元年8月10日～18日
まほろん夏休み特別体験

令和元年9月28日～12月15日
指定文化財展「渦文―一時を超える文様―」

令和元年11月3日 まほろん感謝デー

令和2年2月1日～3月29日

ふくしま歴史探訪展「ふくしま鉄ものがたり―鉄滓の山から読み解く歴史―」

令和2年2月16日 まほろん冬まつり



まほろん冬まつり

4 災害等の影響

令和元年10月12日、台風19号が福島県を襲い、同日午後4時から翌13日午前10時まで臨時休館とした。

令和2年2月からは、新型コロナウイルス感染症が国内でも拡大し始めた。このため白河館では、感染症拡大防止策の一環として、3月は館内での体験活動を休止としたほか、タッチモニターと共用パソコンの使用を禁止した。ふくしま歴史探訪展「ふくしま鉄ものがたり」の関連行事として3月7日・8日に予定していたシンポジウム「鉄の道をたどる」も中止した。

また、福島県教育委員会は、東日本大震災により被災した博物館の収蔵資料を保管するための文化財仮保管施設を、平成25年から当館の敷地内に設置している。本施設には、福島県被災文化財等救援本部により救出された、富岡町歴史民俗資料館・大熊町民俗伝承館・双葉町歴史民俗資料館の収蔵資料が保管されている。

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

1 利用状況

1. 利用者数

令和元年度の総利用者数は、27,718名（平成30年度35,846名）で、前年度に比べ8,128名の減少となった。入館者数は、23,679名（平成30年度26,731名）、館外利用者数は、4,039名（平成30年度9,115名）であった。

入館者数については、県内小学校による利用の減少、新型コロナウイルス感染症拡大の影響などが重なり、前年度に比べ3,052名減少した。

館外利用については、小・中学校等の教育機関や公民館等の社会教育施設を対象とする「おでかけまほろん」を15か所、地域のイベントへの出展を5か所で実施した。また、県内3か所で開催したまほろん移動展とその関連講座、市町村の文化財保護審議委員等を対象とした専門研修を含めた館外利用者の総数は、前年度に比べ5,076名減少した。これは、移動展が前年度より実施会場が少なく、開催期間が短かったことなどが要因になっている。

2. 入館者数の内訳と傾向

入館者数は、23,679名（平成30年度26,731名）となった。

（1）地域別利用状況

入館者の地域別利用者は、県内が18,781名（平成30年度21,743名）で79.3%（平成30年度81.3%）、県外が4,898名（平成30年度4,988名）で20.7%（平成30年度18.7%）であった。白河市内からの入館者は8,979名（平成30年度9,860名）で前年度に比べ881名減少した。これは、企画展の内容が前年度に白河市との共催で実施した指定文化財展「白河市天王山遺跡の時代」のように、地元の特別な関心を誘起し得なかったことが一因と考えられる。

（2）年齢別利用状況

幼児、小・中学生、高校生が9,518名で、入館者全体の40.2%（平成30年度42.7%）、一般の入館者数は14,161名で、入館者全体の59.8%（平成30年度57.3%）となり、前年度に比べ、高校生以下の入館者の割合が減少した。

（3）団体利用状況

入館した団体数は192団体（平成30年度は211団体）、団体による来館者数は6,864名（平成30年度7,854名）となり、前年度から990名減少した。

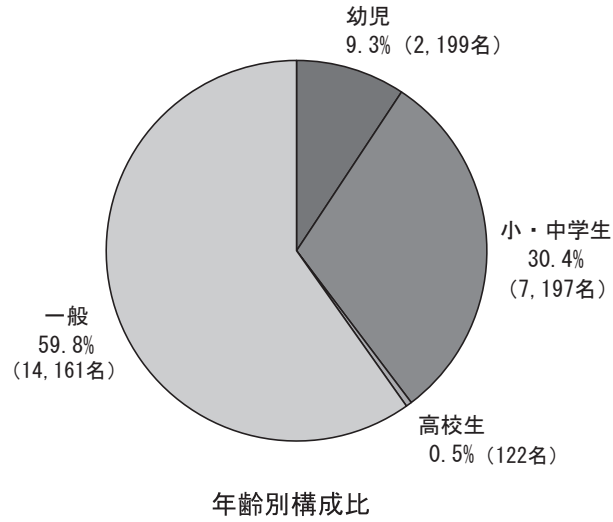
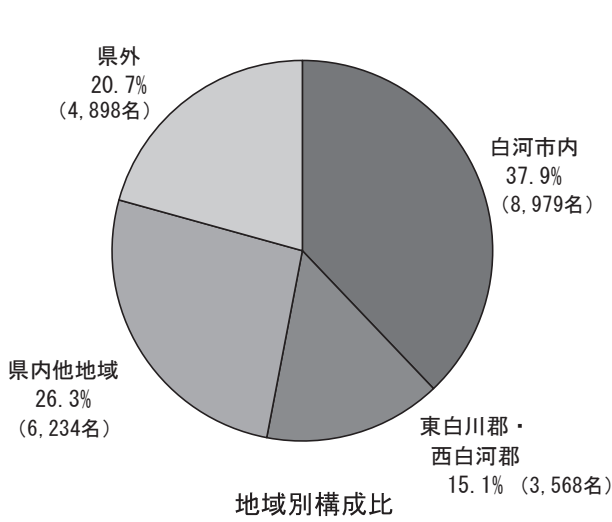
団体利用のうち、学校関係は4,335名（平成

月別入館者数

令和元年度	年齢別属性		地域別属性		入館者	館外利用者	総利用者数 (合計)	平成30年度	
	幼小中高	一般	県内	県外				入館者	館外利用者
4月	1,121	1,234	1,992	363	2,355	0	2,355	2,538	80
5月	1,292	1,843	2,551	584	3,135	0	3,135	3,366	1,034
6月	1,084	1,166	1,873	377	2,250	1,079	3,329	3,080	414
7月	1,085	1,333	1,588	830	2,418	80	2,498	2,341	1,376
8月	1,161	1,594	1,594	1,161	2,755	59	2,814	2,966	1,185
9月	905	1,034	1,602	337	1,939	38	1,977	2,252	151
10月	427	978	1,191	214	1,405	437	1,842	2,005	1,154
11月	890	1,442	1,956	376	2,332	2,103	4,435	2,360	3,171
12月	413	857	1,102	168	1,270	43	1,313	1,285	71
1月	384	686	958	112	1,070	170	1,240	1,160	239
2月	584	1,251	1,622	213	1,835	30	1,865	1,669	142
3月	172	743	752	163	915	0	915	1,709	98
合計	9,518名	14,161名	18,781名	4,898名	23,679名	4,039名	27,718名	26,731名	9,115名

30年度5,329名）で、前年度から994名減少した。
なかでも小学校の利用は、前年度の82校から
59校に大幅に減少した。この要因としては、白
河館の体験活動が福島県教育委員会の補助事

業の対象外となり、利用キャンセルが相次いだ
ことが挙げられる。また、小学校の英語教育必
修化によるカリキュラム変更により、校外学習の
時間削減などが影響を及ぼしたと考えられる。



団体利用者一覧

団 体			令和元年度														平成30年度	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	合計		
学校関係	幼稚園・保育園	園数	1		2	1		1				1			6	11		
		来館者数	15		83	35		6				13			152	214		
	小学校	学校数	14	7	13	6		5	2	5	4	2	1		59	82		
		来館者数	493	440	601	414		458	152	260	97	92	35		3,042	4275		
	中学校	学校数	1				1	1			1				4			
		来館者数	24				79	49			13				165	273		
	高等学校	学校数						1							1	0		
		来館者数						5							5	0		
	養護学校	学校数									1				1	3		
		来館者数									28				28	34		
大学	学校数		1		1	2			2					6	3			
	来館者数		105		9	25			31					170	57			
幼小中高PTA （保護者のみ）	学校数								1					1	0			
	来館者数								33					33	0			
幼小中高PTA （親子レク等）	学校数			7	6		2							15	9			
	来館者数			349	281		110							740	476			
生涯学習関係	研究会	会数		1		1		1						3	2			
		来館者数		22		42		42						106	53			
	子ども会	会数				2		1						3	9			
		来館者数				29		64						93	423			
公民館等	館数	1	3	2	5	1	1	4	2	3	1			23	17			
	来館者数	23	98	61	258	13	11	98	33	33	13			641	366			
社会福祉関係	福祉施設・デイ ケアサービス	団体数	3	1		3	3	2	2	4	1	1		20	27			
		来館者数	68	24		29	87	48	25	33	10	19			343	479		
文化団体関係	資料館等	館数						1		1				2	2			
		来館者数						20		31				51	36			
	歴史研究	団体数	1	1	1				1	2		1		7	3			
		来館者数	10	15	33				15	40		13			126	64		
行政機関関係	県・市町村・ 教委・審議会等	団体数						2	1					3	4			
		来館者数							41	16					57	41		
その他	その他	団体数	1	3	3	4	6	2	6	6	4	1	2		38	35		
		来館者数	10	88	41	88	400	33	94	200	113	7	38		1,112	1063		
合計	団体数	22	17	28	29	13	18	17	24	14	7	3	0	192	211			
	団体来館者数	643	792	1,168	1,185	604	846	425	677	294	157	73	0	6,864	7854			
総来館者数		2,355	3,135	2,250	2,418	2,755	1,939	1,405	2,332	1,270	1,070	1,835	915	23,679	26,731			
団体利用者の割合（％）		27.30%	25.26%	51.91%	49.01%	21.92%	43.63%	30.25%	29.03%	23.15%	14.67%	3.98%	0%	28.99%	29.38%			

2 維持管理に関する業務

1. 建築物・設備・環境衛生・外構等保守管理業務

「福島県文化財センター白河館の維持管理に係る業務」の仕様書に則し、下記のとおり実施した。

- (1) 建築基準法第12条定期点検業務
(株) 兼子組
- (2) 空調設備点検業務
常光サービス (株)
- (3) 消防用設備等保守点検業務
大槻電気通信 (株)
- (4) 電話設備等点検業務
(株) ユニテック
- (5) 簡易型昇降機及びリフター保守点検業務
常光サービス (株)
- (6) 自動ドア保全業務
常光サービス (株)
- (7) 自家用電気工作物保安管理業務
(一財) 東北電気保安協会福島事業本部
- (8) 展示用及び講堂用 A V 機器保守点検管理業務
(株) オリエンタル・エージェンシー
- (9) 植栽管理業務
(有) 西牧植園
- (10) 清掃業務
(株) タイセークリーン
- (11) 除雪業務
(有) 猪越土木
- (12) 警備業務
A L S O K 福島 (株)

2. 施設・設備等の修繕状況

- (1) 令和元年6月14日
体験広場散水栓給水管バルブ修繕
- (2) 令和元年7月31日
特別収蔵庫空調室内機のVベルト修繕
- (3) 令和元年8月1日
野外展示「前方後円墳」階段踏み板の修繕
- (4) 令和元年8月27日
非常用自家発電設備修繕

- (5) 令和2年1月10日
職員駐車場ハンドホール修繕
- (6) 令和2年2月13日
本館棟南側出入り口脇手洗い場蛇口修繕
- (7) 令和2年3月9日
警備員室空調室外機修繕
- (8) 令和2年3月17日
空調室外機保全整備
- (9) 令和2年3月31日
一般収蔵庫水銀灯修繕
- (10) 令和2年3月31日
野外展示物「奈良時代の家」修繕工事
(福島県直轄事業)
- (11) 令和2年3月31日
特別収蔵庫空調設備修繕工事 (福島県直轄事業)



野外展示「前方後円墳」

3. 備品・物品管理業務

基本協定書別表「管理財産一覧」について適正に管理した。

3 文化財の収蔵・保管に関する業務

1. 収蔵資料

	遺 物	写 真	図 面	地図・カード類	無形の文化財関連	合計(箱)
一般収蔵庫	50,917	3,373	1,205	525	10	56,030
特別収蔵庫	730					730
合計	51,647	3,373	1,205	525	10	56,760

※1 一般収蔵庫の収容能力は最大66,000箱

※2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属質遺物を収納

※3 『年報～平成30年度実績～』中、6頁「3文化財の収蔵保管に関する業務 1.収蔵資料」の数値に誤りがありました。正しくは下表のとおりとなります。

※平成30年度収蔵資料（訂正）

	遺 物	写 真	図 面	地図・カード類	無形の文化財関連	合計(箱)
一般収蔵庫	50,599	3,356	1,200	525	10	55,690
特別収蔵庫	721					721
合計	51,320	3,356	1,200	525	10	56,411

2. 資料貸し出し

(1) 遺 物 (13件)

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量 (点)
平31.4.1～令2.3.31	原町火力発電所（常設展示）	南相馬市大船迫A遺跡出土砂鉄ほか	23
平31.4.1～令2.3.31	須賀川市立博物館（常設展示）	須賀川市梅田横穴古墳出土須恵器	1
平31.4.1～令2.3.31	白河市歴史民俗資料館（常設展示）	白河市一里段A遺跡出土石器ほか	5
平31.4.1～令2.3.31	大安場史跡公園（常設展示）	郡山市弥明遺跡出土石器	5
平31.4.1～令2.3.31	福島県立博物館（常設展示・継続分）	桑折町平林遺跡出土石器ほか	1,243
平31.4.1～令元.6.4	福島市振興公社（企画展「福島市の弥生遺跡」）	福島市孫六橋遺跡出土土器ほか	18
平31.4.1～令元.6.20	福島県立博物館（テーマ展「うるわしのうるしのうつわ」）	下郷町南倉沢遺跡出土土器ほか	3
令元.6.20～令元.9.20	島根県立古代出雲歴史博物館（企画展「たたら一鉄の国 出雲の実像一」）	南相馬市大船迫A遺跡出土炉壁・羽口ほか	10
令元.6.21～令元.10.17	仙台市富沢遺跡保存館（特別企画展「センダイ 遺跡の記憶」）	南相馬市天化沢A遺跡出土石器ほか	27
令元.7.25～令元.11.30	福島県立博物館（企画展「あにまるずANIMAL×Zoo—どうぶつの考古学—」）	飯館村上ノ台A遺跡出土縄文土器ほか	66
令元.9.3～令元.12.19	群馬県立歴史博物館（企画展「ハート形土偶 大集合!!—縄文のかたち・美、そして岡本太郎—」）	郡山市荒小路遺跡出土土偶ほか	14
令元.9.6～令元.10.18	湯川村教育委員会（企画展「桜町遺跡の弥生土器 里帰り展」）	湯川村桜町遺跡出土土器	16
令元.9.11～令元.11.21	大田原市なす風土記の丘湯津上資料館（特別展「那須の古代窯業—瓦・須恵器の生産と流通—」）	泉崎村関和久遺跡出土瓦ほか	25
		合 計	1,456

(2) 模型及びレプリカ (5件)

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量 (点)
平31.4.1～令2.3.31	福島県立博物館（常設展示・継続分）	獣脚付容器（復元品）ほか	19
令元.6.20～令元.9.20	島根県立古代出雲歴史博物館（企画展「たたら一鉄の国 出雲の実像一」）	弓を射る兵士（復元品）ほか	2
令元.7.2～令元.9.4	大安場史跡公園（全面開園10周年記念企画展「FUKUSHIMA前期古墳アラカルト」）	三角縁神獣鏡（復元品）ほか	2
令元.9.4～令元.11.30	東北歴史博物館（特別展「蝦夷—古代エミシと律令国家—」）	弩（復元品）	1
令元.10.1～令2.1.21	帝京大学総合博物館（企画展「キャンパス遺跡発見伝 古代多摩に生きたエミシの謎を追え」）	多賀城へ向かう軍団兵士	7
		合 計	31

3. 写真掲載等承認 (31件)

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量 (点)
平31.4.22	㈱敬文舎（安斎正人『縄紋時代史 中』）	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡333号土坑	1
平31.4.22	古殿町（『ビジュアル版ふるどの歴史』）	「まほろんガイド」縄文時代の土器ほか	23
令元.5.24	㈱キャデック（技術評論社『ずかん縄文土器』）	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡縄文土器	1
令元.5.29	島根県立古代出雲歴史博物館（企画展図録「たたら 一鉄の国 出雲の実像一」）	南相馬市大船迫A遺跡出土炉壁・羽口ほか	12

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量 (点)
令元.6.17	仙台市富沢遺跡保存館（特別企画展『センダイ 遺跡の記憶』展示図録）	南相馬市天化沢 A 遺跡石器ほか	33
令元.6.18	東北歴史博物館（特別展「蝦夷ー古代エミシと律令国家ー」）	弩（復元品）	1
令元.7.22	湯川村教育委員会（企画展「桜町遺跡の弥生土器 里帰り展」）	湯川村桜町遺跡 9 号周溝墓出土土器	1
令元.7.22	福島県立博物館（企画展図録「あにまるず ANIMAL × ZOOーどうぶつの考古学ー」）	飯館村上ノ台 A 遺跡出土縄文土器ほか	66
令元.7.23	大田原市なす風土記の丘湯津上資料館（企画展図録「那須の古代窯業ー瓦・須恵器の生産と流通ー」）	泉崎村関和久遺跡柱列跡ほか	5
令元.8.13	㈱平凡社（2020 年 縄文カレンダー 土の中からでてきたよ）	郡山市荒小路遺跡出土土偶	1
令元.8.13	高瀬克範（弥生時代研究会編『靱』10号）	玉川村江平遺跡出土弥生土器	10
令元.8.13	群馬県立歴史博物館（第100回企画展図録『ハート形土偶 大集合!ー縄文のかたち・美、そして岡本太郎』）	郡山市荒小路遺跡出土土偶ほか	14
令元.8.26	湯川村教育委員会（「桜町遺跡の弥生土器 里帰り展」）	湯川村桜町遺跡 9 号周溝墓ほか	15
令元.9.10	勉強出版㈱（『文化情報学辞典』）	相馬市段ノ原 B 遺跡	1
令元.9.10	赤沼博志（歴史春秋社『ふくしま手語り 孤高の鎌音 藤安将平・古刀再現の道』）	南相馬市横大道遺跡 5 号製鉄炉跡	1
令元.9.25	帝京大学総合博物館（帝京大学総合博物館企画展「キャンパス遺跡発見伝 古代多摩に生きたエミシの謎を追え」展覧会リーフレット）	刀子（復元品）ほか	8
令元.10.2	湯川村教育委員会（企画展「桜町遺跡の弥生土器 里帰り展」）	湯川村桜町遺跡出土弥生土器ほか	18
令元.10.8	各務原市埋蔵文化財調査センター（企画展「古墳時代の各務原」展示解説パネル）	福島県文化財センター白河館 馬（復元品）	1
令元.10.15	袖ヶ浦市教育委員会（平成30年度山野貝塚講演会 山野貝塚から縄文時代のムラと社会を探る 記録集）	郡山市荒小路遺跡出土土偶	1
令元.10.28	㈱ユニフォトブレスインターナショナル（令和2年度版『社会科思考力 問題集（仮）』）	三角縁神獣鏡（復元品）	1
令元.11.5	㈱小学館『和楽web』編集部（Webマガジン『和楽web』）	郡山市荒小路遺跡出土土偶	1
令元.11.21	㈱悠工房（㈱教育同人社『社会科資料集6年』）	奈良時代の家（野外展示施設）ほか	2
令元.11.28	㈱碧水社（㈱講談社『タテ割り日本史 第1巻 食べ物の日本史』）	古墳時代の食べ物（復元品）ほか	4
令元.12.19	釈迦堂遺跡博物館（常設展示パネル・展示案内）	郡山市荒小路遺跡出土土偶	1
令元.12.20	ＩＣＯＭ京都大会ポストカンファレンスツアー事務局（ＩＣＯＭ－ＣＣ ニュースレター "On Board"）	福島県文化財センター白河館 一般収蔵庫内写真	1
令元.12.20	オフィスワイズメイツ合同会社（株式会社正進社刊行『社会科資料集6年』（改訂版））	古墳時代の食べ物（復元品）	1
令元.12.24	十日町市博物館（常設展「縄文土器と火焰型土器のクニ」展示解説パネル）	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器	3
令元.12.24	那須野が原博物館（企画展「縄文クロスロード・槻沢」展示パネル）	富岡町前山 A 遺跡 7 号住居跡	11
令2.1.9	㈱日本アート・センター（㈱講談社刊『タテ割り日本史 第5巻 戦争の日本史』）	弓を引く武人像（復元品）	1
令2.3.3	㈱小峰書店（『明日の防災に活かす 災害の歴史』第1巻「日本列島誕生～奈良時代」）	相馬市段ノ原 B 遺跡地割れ遺構	1
令2.3.23	㈱吉川弘文館（吉野秋二『古代の食生活 食べる・働く・暮らす』）	奈良時代の家（野外展示施設）	2
		合 計	242

4. 資料閲覧

（1）遺 物（19件）

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量 (点)
平31.4.3	県外研究者（調査研究）	南相馬市天化沢 A 遺跡	78
平31.4.13	県外研究者（調査研究）	浪江町後田 A 遺跡ほか	303
令元.5.12	県内研究者（調査研究）	広野町上田郷 VI 遺跡	1,468
令元.6.11	県外研究者（調査研究）	天栄村桑名邸遺跡ほか	8
令元.6.16	県内研究者（企画展の事前調査）	飯館村上ノ台 A 遺跡ほか	83
令元.6.18	県内研究者（調査研究）	郡山市正直 A 遺跡ほか	676
令元.6.27	県内研究者（企画展の事前調査）	湯川村桜町遺跡	10
令元.6.29・30	県外研究者（調査研究）	南相馬市天化沢 A 遺跡ほか	3,032
令元.7.7	県外研究者（調査研究）	天栄村桑名邸遺跡ほか	8
令元.7.12	県外研究者（企画展の事前調査）	泉崎村関和久遺跡ほか	37
令元.7.27	県外研究者（調査研究）	相馬市柴迫 A 遺跡ほか	700
令元.10.9	県内研究者（調査研究）	飯館村羽白 C 遺跡	1,350
令元.10.30	県外研究者（調査研究）	会津美里町道上遺跡ほか	127
令元.12.15	県外研究者（調査研究）	郡山市正直 A 遺跡	225
令2.1.12	県内研究者（調査研究）	相馬市明神遺跡ほか	6
令2.2.18	県外研究者（調査研究）	会津坂下町能登遺跡ほか	806
令2.2.20	県内研究者（調査研究）	新地町三貫地遺跡	1
令2.2.21	県外研究者（企画展の事前調査）	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡ほか	8
令2.3.14	県外研究者（調査研究）	会津若松市屋敷遺跡ほか	47
		合 計	8,973

（2）その他（2件）

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量 (点)
令元.6.8	県外研究者（企画展の事前調査）	弩（復元品）	1
令元.7.30	県外研究者（企画展の事前調査）	多賀城に向かう軍団兵士（復元品）	1
		合 計	2

4 文化財の活用に関する業務

1. 常設展示

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ①「まほろんの逸品」
- ②「探してみよう福島文化財」
- ③「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)

2) 常設展示室

- ①「めぐみの森」
- ②「暮らしのうつりかわり」
 - 〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
 - 〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
 - 〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
 - 〈旧石器時代〉

- ③「暮らしをささえた道具たち」
- サブコーナー〈まほろんビデオBOX〉

- ④「遺跡を掘る」
- ⑤「みんなの研究ひろば」
- ⑥「クイズ福島歴史発見」
- ⑦「のぞいてみよう福島の遺産」
- ⑧「話題の遺跡」
- ⑨「しらかわ歴史名場面」
- ⑩「国指定重要文化財 法正尻遺跡」
- ⑪ 映像展示

(2) 展示替え

令和元年度の展示替えは、別表一覧のとおりである。年度当初に作成した展示計画案をもとに、企画展事業や他の事業との関連をもたせる

展示替え一覧

コーナー	タイトル	開催期間	所有者	備考
まほろんの逸品	弥生土器(放射性炭素年代測定結果公開) 桜町遺跡	平31.4.2～4.26	福島県教育委員会	
	墨書土器「令・和」 令：玉川村辰巳城遺跡 和：会津若松市上吉田遺跡	平成31.4.27～令和元.7.31	福島県教育委員会	
	太平洋戦争を物語る葉巻 南相馬市赤柴遺跡	令和元.8.1～9.29	福島県教育委員会	
	鉄生産に関わった郡司クラスの墓か？ 新地町武井E遺跡	令和元.10.1～12.28	福島県教育委員会	
	化学分析で新事実が分かった土師器 南相馬市割田H遺跡	令和2.1.5～3.31	福島県教育委員会	
みんなの研究ひろば	まほろんボランティア平成30年度の活動	平31.4.2～令和元.5.17		平成30年度からの継続
	山内幹夫コレクション展	令和元.5.18～9.24	山内幹夫氏	
	相馬高校郷土部のキセキ展	令和元.9.25～12.8	福島県立相馬高等学校	
	文化財を未来に伝える～保存科学の取り組み～	令和元.12.10～令和2.3.31	福島県教育委員会	
話題の遺跡	鬼穴古墳	平31.4.2～令和元.5.12	矢吹町教育委員会	平成30年度からの継続
	東日本大震災復興関連遺跡の調査①	平31.4.2～令和元.6.12	福島県教育委員会	平成30年度からの継続
	まほろん収蔵資料の年代測定資料の紹介	令和元.6.13～9.6	福島県教育委員会	
	大熊の記憶	令和元.9.7～9.23	大熊町教育委員会他	
	高木遺跡	令和元.12.10～令和2.3.31	福島県教育委員会	
しらかわ歴史名場面	白河軍団と兵士	平31.4.2～令和元.6.7	福島県教育委員会	平成30年度からの継続
	中通り南部の製鉄遺跡	令和元.12.10～令和2.3.31	福島県教育委員会	
国指定重要文化財の公開	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡縄文土器	平31.4.2～令和元.9.6	福島県教育委員会	
		令和元.9.25～12.3		国指定重要文化財
		令和元.12.4～令和2.1.31		国指定重要文化財
		令和2.2.1～3.31		
新春干支特別展示	新春「子」特別展示	令和2.1.5～1.31	福島県教育委員会	

内容とした。

1) 学芸員がおすすめする収蔵品を「まほろんの逸品」として、計5回の展示を行った。

2) みんなの研究ひろば

このコーナーは、歴史や文化財等に関する研究を紹介するほか、令和元年度は、福島県立相馬高等学校郷土部の活動記録や収蔵資料を展示した。

令和元年度は、計4回の展示を行った。

◆まほろんボランティア平成30年度の活動
(平成30年度からの継続)

白河館ボランティアの平成30年度の活動と、ボランティアが製作した弥生土器レプリカなどを紹介した。

◆山内幹夫コレクション展

当館元学芸員の山内幹夫氏が、故郷である楢葉町馬場前遺跡で採集した石器や、高校生の時に作成した研究ノートを展示した。

◆相馬高校郷土部のキセキ展

昭和21年に創部され、学史に残る遺跡の発掘調査に参加した福島県立相馬高等学校郷土部の活動記録や収蔵資料について、「話題の遺跡」コーナーと「しらかわ歴史名場面」のコーナーも用いながら、相馬市藤堂塚遺跡から出土した土器や相馬市丸塚古墳から出土した人物埴輪、相馬市高松1号墳から出土した資料、発掘調査の記録写真や報告書の原稿などを展示した。

また、令和元年5月に駒澤大学で開催された日本考古学協会第85回総会にポスターセッションに参加した時の内容など、現在の郷土部員の活動をパネルで紹介した。



「相馬高校郷土部のキセキ展」

◆文化財を未来に伝える～保存科学の取り組み～

発掘調査で出土した木質・金属質遺物の保存処理工程の解説パネルや、使用している道具なども展示して、文化財を未来に残していくための保存科学の取り組みを分かりやすく紹介した。

3) 話題の遺跡

県内の文化財情報を収集し、話題性のある資料を速報的に展示するコーナーである。企画展や他の展示コーナーに関連する資料を紹介し、展示室全体が有機的に関連するよう努めている。

令和元年度は計5回の展示を行った。

◆鬼穴古墳(平成30年度からの継続)

矢吹町鬼穴1号古墳から出土した家形埴輪片(矢吹町教育委員会所蔵)などを展示するとともに、同町で実施した範囲確認調査の成果を速報した。

◆東日本大震災復興関連遺跡の調査①

東日本大震災の復旧・復興事業にともなう行われた調査によって得られた成果を展示した。

◆まほろん収蔵資料の年代測定資料の紹介

過去にAMS年代測定を行った土器を、最新の暦年較正プログラムである「IntCal13」に変換した測定結果とともに展示した。

◆大熊の記憶

福島第一原子力発電所の事故以降、白河館の仮保管施設で保護されている大熊町の文化財や写真などを展示した。

◆高木遺跡

令和元年度に白河館に収蔵された須賀川市高木遺跡の古墳時代前期の資料を展示した。

4) しらかわ歴史名場面

このコーナーは、地元自治体と連携した展示も行いながら、白河地域の文化財について理解を深める展示を目的としている。

令和元年度は、計2回の展示を行った。

◆白河軍団と兵士(平成30年度からの継続)

古代の白河郡に置かれたとされる「白河軍団」の兵士の再現人形を紹介するとともに、その装備品(レプリカ)を展示した。

◆中通り南部の製鉄遺跡

企画展「ふくしま鉄ものがたり」に関連して、中世から近世の製鉄遺跡(須賀川市銭神G遺跡他)の出土資料を展示した。

5) 国指定重要文化財の公開

磐梯町・猪苗代町に所在する法正尻遺跡から出土した遺物のうち、国指定重要文化財の縄文土器などを選び、計4回の展示を行った。

6) 新春干支特別展示

令和2年新春を迎えるにあたり、干支「子」にちなんだ展示を行った。子の文字が書かれた墨書土器などを展示した。

(3) 展示資料のメンテナンス等

常設・野外展示資料及び施設の状態について、定期的に点検を実施し、軽微な修繕については、展示担当の学芸員が行った。

また、専門業者に依頼した野外展示の修繕箇所及び方法は以下の通りである。

◆前方後円墳

腐食した階段踏み板の部材の取り換えと塗装を行った。

◆奈良時代の家

屋根材・壁材の茅の腐食が進行したため、福島県の施工により茅の葺き替えを行った。

2. 企画展示

(1) 「子どものための特集展」

会期：平成31年4月16日（火）～令和元年5月12日（日）（開催日数25日間）

観覧者数：3,614人

1) 趣旨と方法

特別展示室を子どもたちが「教室」として使えるよう企画した特集展。「特別展示室が教室にかわる！」をキャッチフレーズに、特別展示室全体を教室に見立て、団体見学に訪れた小学生が土器や石器に触れながら学習する機会を設けた。実物を前にしながらグループ学習を行い、疑問を解いていく楽しさを感じてもらうことを狙いとした。

展示室・展示ケースの壁面には、旧石器時代から現代にいたる平均気温の変化を示す折れ線グラフのみを表示し、展示品を解説する文章は皆無とするという初の試みを行った。グラフに対応するように当該時期の出土品を配置し、人類が気候変動にどう適応してきたかを考えられる構成とした。また、グラフの最後に気候変動の未来予測を提示し、地球温暖化の課題を考え

られるよう配慮した。

2) 展示の構成と内容

旧石器時代から中世にいたる当館収蔵資料のみで構成した。気候変動グラフは、現在の年平均気温との対比に加え、その節目にあたる「氷期の終わり」「縄文海進」「小氷期」などといったイベントを表示した。このため、各イベントを区切りとし、後期旧石器時代前半期（最終寒冷期直前の頃）であれば「④の頃」、縄文時代草創期後半期（新ドリラス期の頃）であれば「⑤の頃」などと称し、「④の頃の石器」「⑤の頃の土器」などと展示キャプションで表現した。

歴史を学び始めた小学生の「学び」「気づき」をテーマとしていたため、土器や石器が大きかったり小さかったり、分厚かったり薄かったりの変化を感じることができるように展示した。また、同時期の土器と石器などを並列に配置し、道具のセットが分かるように陳列した。



「子どものための特集展」

3) 成果と反省

4・5月は歴史学習を目的とした小学生の団体見学が多い時期であり、多くの児童・生徒に「なぜ歴史を学ぶのか」と問いかける機会を創出できた。特に、地球温暖化については身近な課題であり、人類の歴史を通じて未来を考えるきっかけになったとの感想が児童から寄せられた意義は大きいと考える。

一方、気候変動に関するグラフに対して、江戸時代から現代の急激ともいえる気温上昇に来館者の関心が注がれた。これに対する展示物を配置できなかったことは反省点となった。

「子どものための特集展」展示資料一覧

No	資料名	遺跡名	点数	No	資料名	遺跡名	点数	No	資料名	遺跡名	点数
1	台形様石器	上悪戸遺跡	1	71	縄文土器 浅鉢	鬼渡A遺跡	1	141	弥生土器 蓋	屋敷遺跡	1
2	搔器	上悪戸遺跡	1	72	石槍	乱塔前遺跡	2	142	鉄鏃	白岩堀ノ内遺跡	1
3	削器	上悪戸遺跡	2	73	石鏃	塩喰岩陰遺跡	8	143	石鏃	桜町遺跡	4
4	ナイフ形石器	小田高原遺跡	1	74	搔器	塩喰岩陰遺跡	3	144	石鏃	割田B遺跡	1
5	ナイフ形石器	萩原遺跡	4	75	石筥	塩喰岩陰遺跡	2	145	石鏃	南萱倉遺跡	1
6	搔器	萩原遺跡	1	76	直刃斧	塩喰岩陰遺跡	1	146	磨製石斧	柴迫A遺跡	1
7	石刃	萩原遺跡	4	77	石鏃	塩喰岩陰遺跡	3	147	磨製石斧	長瀬遺跡	1
8	接合資料	萩原遺跡	16	78	磨製石斧	塩喰岩陰遺跡	1	148	ノミ形石器	天化沢A遺跡	1
9	刃部磨製石斧	萩原遺跡	1	79	石槍	萩原遺跡	2	149	片刃石斧	白岩堀ノ内遺跡	3
10	ナイフ形石器	薬師堂遺跡	1	80	石鏃	萩原遺跡	6	150	磨製石斧	白岩堀ノ内遺跡	3
11	ナイフ形石器	赤柴遺跡	2	81	石匙	萩原遺跡	2	151	磨製石斧	柴迫A遺跡	1
12	ナイフ形石器	小迫遺跡	1	82	石皿	松ヶ平A遺跡	1	152	磨製石斧	長瀬遺跡	1
13	ナイフ形石器	一里段A遺跡	1	83	磨石	松ヶ平A遺跡	2	153	石庖丁	天化沢A遺跡	1
14	搔器	一里段A遺跡	3	84	石槍	牧場山遺跡	1	154	石庖丁未製品	天化沢A遺跡	1
15	接合資料	一里段A遺跡	2	85	石槍	植松C遺跡	1	155	石庖丁	トロミ遺跡	1
16	尖頭器	赤柴遺跡	1	86	石槍	空釜B遺跡	1	156	石鏃	柴迫A遺跡	1
17	スキー状スポール	赤柴遺跡	1	87	石槍	岩下D遺跡	1	157	石鏃	能登遺跡	1
18	細石刃	赤柴遺跡	1	88	石槍	羽山B遺跡	1	158	土師器 埴	落合遺跡	2
19	細石刃	薬師堂遺跡	2	89	石槍	西田H遺跡	1	159	土師器 小型丸底壺	落合遺跡	1
20	細石刃核	薬師堂遺跡	2	90	石鏃	空釜B遺跡	1	160	土師器 器台	落合遺跡	2
21	細石刃核	赤柴遺跡	1	91	石鏃	岩下D遺跡	3	161	土師器 高杯	落合遺跡	1
22	細石刃核	一里段A遺跡	1	92	石匙	獅子内遺跡	2	162	土師器 壺	大池下遺跡	1
23	彫器	赤柴遺跡	1	93	石筥	獅子内遺跡	4	163	土師器 甕	落合遺跡	1
24	尖頭器	猪久保城跡	1	94	石鏃	獅子内遺跡	6	164	土師器 壺	江平遺跡	1
25	尖頭器	羽白D遺跡	1	95	石鏃	馬場前遺跡	6	165	土師器 杯	江平遺跡	1
26	片刃石斧	鶴沼C遺跡	1	96	石鏃	高木遺跡	3	166	土師器 甕	江平遺跡	1
27	縄文土器片	達中久保遺跡	4	97	石槍	上ノ台A遺跡	1	167	土師器 甕	トロミ遺跡	2
28	縄文土器片	春田遺跡	2	98	石鏃	上ノ台A遺跡	6	168	土師器 杯	トロミ遺跡	1
29	縄文土器片	大村新田遺跡	3	99	搔器	上ノ台A遺跡	1	169	土師器 鉢	トロミ遺跡	1
30	縄文土器片	西田H遺跡	2	100	搔器	獅子内遺跡	1	170	土師器 甕	トロミ遺跡	1
31	縄文土器片	一里段A遺跡	1	101	削器	獅子内遺跡	1	171	土師器 杯	高木遺跡	2
32	縄文土器片	西田H遺跡	5	102	石匙	上ノ台A遺跡	1	172	須恵器 杯蓋	善光寺遺跡	1
33	縄文土器片	松ヶ平A遺跡	1	103	削器	上ノ台A遺跡	6	173	須恵器 杯	善光寺遺跡	1
34	縄文土器片	乱塔前遺跡	4	104	石刃	獅子内遺跡	1	174	土師器 甕	高木遺跡	5
35	縄文土器 深鉢	タタラ山遺跡	1	105	打製石斧	上ノ台A遺跡	1	175	土師器 高杯	高木遺跡	1
36	縄文土器 小型深鉢	前原A遺跡	1	106	打製石斧	高木遺跡	2	176	須恵器 小壺	高木遺跡	1
37	縄文土器 深鉢	北平遺跡	1	107	打製石斧	仲平遺跡	2	177	土師器 甕	高木遺跡	1
38	縄文土器 深鉢	田子平遺跡	1	108	打製石斧	大田和広畑遺跡	2	178	土師器 杯	高木遺跡	1
39	縄文土器片	堂田A遺跡	1	109	磨製石斧	仲平遺跡	2	179	土師器 杯 刻書「井」	上宮崎A遺跡	1
40	縄文土器 深鉢	西田H遺跡	1	110	磨製石斧	上ノ台A遺跡	1	180	土師器 杯	江平遺跡	2
41	縄文土器 片口付深鉢	塩喰岩陰遺跡	1	111	石槍	田子平遺跡	1	181	土師器 杯	上宮崎A遺跡	1
42	縄文土器 深鉢	植松C遺跡	1	112	石鏃	田子平遺跡	14	182	土師器 甕	上宮崎A遺跡	1
43	縄文土器 深鉢	植松C遺跡	1	113	石匙	角間遺跡	4	183	須恵器 杯 刻書「正」	江平遺跡	1
44	縄文土器 深鉢	植松C遺跡	1	114	搔器	角間遺跡	1	184	須恵器 杯蓋	能登遺跡	1
45	縄文土器 深鉢	桑名邸遺跡	1	115	石鏃	高木遺跡	1	185	土師器 杯	能登遺跡	1
46	縄文土器 深鉢	桑名邸遺跡	1	116	石鏃	角間遺跡	1	186	土師器 杯	植松C遺跡	1
47	縄文土器 深鉢	桑名邸遺跡	1	117	打製石斧	高木遺跡	2	187	土師器 杯	植松C遺跡	1
48	縄文土器 深鉢	桑名邸遺跡	1	118	打製石斧	柴原A遺跡	1	188	須恵器 杯	植松C遺跡	1
49	縄文土器 深鉢	上ノ台A遺跡	1	119	打製石斧	赤柴遺跡	1	189	土師器 甕	能登遺跡	2
50	縄文土器 深鉢	高木遺跡	1	120	磨製石斧	中平遺跡	1	190	土師器 甕	高木遺跡	1
51	縄文土器 注口土器	高木遺跡	1	121	石鏃	角間遺跡	3	191	土師器 甕	高木遺跡	1
52	縄文土器 深鉢	高木遺跡	1	122	石皿	高木遺跡	1	192	土師器 甕	明神遺跡	2
53	縄文土器 注口浅鉢	高木遺跡	1	123	磨石	高木遺跡	2	193	土師器 甕	上宮崎A遺跡	1
54	縄文土器 深鉢	高木遺跡	1	124	石皿	角間遺跡	1	194	土師器 甕	小田高原遺跡	2
55	縄文土器 注口土器	柴原A遺跡	1	125	打製石斧	羽白C遺跡	3	195	土師器 甕	植松C遺跡	1
56	縄文土器 深鉢	柴原A遺跡	1	126	磨製石斧	羽白C遺跡	2	196	土師器 甕	高木遺跡	1
57	縄文土器 深鉢	田子平遺跡	1	127	磨製石斧	沢目木B遺跡	1	197	須恵器 硯	鳥打沢A遺跡	1
58	縄文土器 深鉢	田子平遺跡	1	128	石槍	羽白C遺跡	1	198	須恵器 高杯	タタラ山遺跡	1
59	縄文土器 小型深鉢	鬼渡A遺跡	1	129	石鏃	羽白C遺跡	16	199	須恵器 平瓶	鳥打沢A遺跡	1
60	縄文土器 小型深鉢	鬼渡A遺跡	1	130	石鏃	羽白C遺跡	16	200	須恵器 横瓶	高木遺跡	1
61	縄文土器 小型深鉢	鬼渡A遺跡	1	131	石匙	羽白C遺跡	4	201	須恵器 長頸瓶	能登遺跡	1
62	縄文土器 小型浅鉢	羽白C遺跡	1	132	弥生土器 浅鉢	松ヶ作A遺跡	1	202	鉄製鍬先	関林D遺跡	1
63	縄文土器 小型浅鉢	鬼渡A遺跡	1	133	弥生土器 蓋	一ノ堰B遺跡	1	203	鉄製袋状鉄斧	小田高原遺跡	1
64	縄文土器 注口土器	日向南遺跡	1	134	弥生土器 鉢	一ノ堰B遺跡	2	204	鉄塊	横大道製鉄遺跡	5
65	縄文土器 香炉形土器	日向南遺跡	1	135	弥生土器 高杯	一ノ堰B遺跡	2	205	かわらけ	トロミ遺跡	8
66	縄文土器 壺形土器	羽白C遺跡	1	136	弥生土器 壺	一ノ堰B遺跡	2	206	常滑焼 大甕	本町西A遺跡	1
67	縄文土器 浅鉢	鬼渡A遺跡	1	137	弥生土器 壺	美ノ森B遺跡	1	207	提子	高堂太遺跡	1
68	縄文土器 浅鉢	鬼渡A遺跡	1	138	弥生土器 甕	柴迫A遺跡	1	208	中国龍泉窯系染付小皿	高堂太遺跡	8
69	縄文土器 浅鉢	鬼渡A遺跡	1	139	弥生土器 甕	能登遺跡	2			計	400
70	縄文土器 台付浅鉢	羽白C遺跡	1	140	弥生土器 甕	屋敷遺跡	1		すべて福島県文化財センター白河館収蔵		

(2) 収蔵資料展

「時を測る—縄文・弥生時代の年代—」

会期:令和元年6月15日(土)～8月25日(日)
(開催日数63日間)

観覧者数:6,240人

1) 趣旨と方法

平成26年度から5か年にわたって行った、白河館収蔵資料の放射性炭素年代測定及び炭素・窒素安定同位体比分析の総括ともいえる展示を催した。AMS法を用いて放射性炭素年代測定を行った160点の資料を展示し、その暦年代値を公表した。

さらに、炭素・窒素安定同位体比分析の分析値とそのデータを基に読み取れる当時の環境や食生活に関する所見も公表した。



「時を測る」ポスター

2) 展示の構成と内容

①時を測る

放射性炭素や放射性炭素年代測定法、暦年較正の概要や考え方を解説した。

②まほろんでの研究

平成26年度から5か年にわたって実施した収蔵資料の放射性炭素年代測定と炭素・窒素安

定同位体比分析の目的と成果を紹介した。

③縄文土器の古さ

年代測定を実施した縄文土器122点を、暦年代値の分析データとともに展示した。

④弥生時代から古墳時代へ

弥生土器35点、古墳時代の土師器3点について、測定対象土器と暦年代値を展示した。

⑤土器に残された記憶

土器に付着した炭化物中の窒素と炭素同位体比と含有量を紹介し、その分析値から炭化物のもとになった調理物を推定して展示した。

⑥「何が分かって、何がわからないのか」

放射性炭素年代測定の成果と炭素・窒素安定同位体比分析の5か年の研究成果についてまとめた。各土器群の暦年代値、浜通り・中通り・会津地方の炭化物の成因となった食料資源の傾向などが明らかになった。また、前後の土器群で、不整合な暦年代値が認められるなど、今後の研究の課題についても提示した。

3) 成果と反省

年代測定に関する企画展をこれまで2回実施してきた反省として、なじみのない理化学的な内容については解説資料や展示パネルで説明をした。しかし、アンケートの結果では、年代測定の内容に関してはまだまだ分かりにくいようであった。

企画展を見学している来館者には、折に触れ展示の内容や年代測定などの解説を行うよう心掛けた。

年代測定や最新科学による研究成果などについては、多くの来館者が興味関心を持っていることが分かった。



「時を測る」展示解説会

「時を測る」展示資料一覧

No	所在地	遺跡名	時期・型式	採取部位	備考	資料名	No	所在地	遺跡名	時期・型式	採取部位	備考	資料名			
1	広野町	上田郷Ⅵ遺跡	大畑 G 式	胴部外面	No 1・2 は同一個体		82	天栄村	桑名邸遺跡	大木 8 b 式	口縁部内面		縄文土器			
2			大畑 G 式	胴部外面			83				口縁部内面					
3			大畑 G 式併行期	口縁部～胴部外面	84		胴部内面									
4			縄文条痕文土器	底部内面	85		口縁部内面									
5			前期初頭期	胴部外面	86		口縁部内面									
6			縄文条痕文土器	胴部外面	87		新地町		双子遺跡	大木 4 式	頸部外面					
7			縄文条痕文土器	胴部内面	No 8・9 は同一個体		88		会津美里町	冨宮西遺跡	大木 5 式併行期	胴部外面				
8				口縁部外面			89		須賀川市	関林 A 遺跡	大木 7 a 式	口縁部外面				
9			前期初頭期	胴部内面			90		会津美里町	鹿島遺跡	大木 6 式	口縁部外面				
10	飯館村	羽白 D 遺跡	花積下層式	口縁部外面			91	磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	大木 8 a 式	口縁部内面		縄文土器			
11				口縁部外面	92		口縁部内面									
12				胴部内面	93		口縁部～胴部内面									
13	羽白 C 遺跡	花積下層式	口縁部外面		94		会津美里町	中江聖の宮遺跡	大木 7 a ～ 7 b 式期	胴部内面						
14	浪江町	中平遺跡	日向前 B 式	胴部外面	No 14・15 は同一個体					95	口縁部～胴部内面					
15				胴部内面						96	口縁部内面					
16				小野町			西田 H 遺跡	北前式	胴部内面	97	飯館村	上ノ台 A 遺跡		大木 7 b 式	口縁部外面	
17	茅山上層式併行期	胴部内面	98		富岡町			前山 A 遺跡	大木 9 式	口縁部内面						
18	日向前 B 式	胴部外面	99		磐梯町・猪苗代町			法正尻遺跡	大木 8 a 式	口縁部内面						
19	郡山市	中ノ沢 A 遺跡	茅山下層式	口縁部外面	No 19・20 は同一個体		100	二本松市	塩沢上原 A 遺跡	大木 9 式	口縁部内面		土師器			
20				胴部内面			101				会津若松市	屋敷遺跡		塩釜式	胴部外面	
21				飯館村			岩下向 A 遺跡				薄手無文土器	胴部内面		102	小野町	落合遺跡
22	小野町	西田 H 遺跡	常世 1 式	胴部内面	103		湯川村	桜町遺跡	白江式併行期	胴部外面		弥生土器				
23				胴部内面	104					口縁部外面						
24				浪江町	乱塔前遺跡					薄手無文土器	胴部内面		105	屋敷式併行期	胴部外面	
25	田村市	馬場平 B 遺跡	田戸下層式	胴部内面	106					胴部外面						
26				胴部外面	107				胴部～外面							
27	天栄村	前原 A 遺跡	田戸下層式	胴部外面			108	会津坂下町	能登遺跡	天王山式	口縁部内面		No 108・109 は同一個体			
28				口縁部外面	109		胴部外面									
29				小野町	西田 H 遺跡		常世 1 式				胴部外面	甍土中の炭化種子	110	会津若松市	和泉遺跡	天王山式
30	胴部外面	111	頸部外面													
31	天栄村	前原 A 遺跡	常世 1 式					胴部中位外面	112	田村市	台ノ前 A 遺跡		明戸式			
32	会津美里町	北平遺跡	常世 2 式	胴部上位外面	No 32・No 59 は同一個体	113	西会津町	塩喰岩陰遺跡	御山村下式	頸部外面		弥生土器				
33				小野町		堂田 A 遺跡				野島式・槻木 1 式	胴部外面		114	天王山式併行期	胴部～外面	
34				広野町		上田郷Ⅵ遺跡	野島式・槻木 1 式	口縁部内面	115	下郷町	稲干場遺跡		野沢Ⅱ式	口縁部外面		
35	小野町	西田 H 遺跡	茅山下層式	口縁部外面	116	矢吹町	八幡町遺跡	南御山 2 式	口縁部外面							
36	飯館村	松ヶ平 A 遺跡	北前式	胴部外面	117	檜葉町	美シ森 B 遺跡	今和泉式	胴部内面	No 117・118 は同一個体						
37				西田 H 遺跡	大畑 G 式				胴部外面		118		胴部外面			
38					鴨ヶ館跡				日向前 B 式	口縁部外面	119		いわき市	白岩堀ノ内遺跡	天神原式	胴部外面
39	小野町	西田 H 遺跡	日向前 B 式	口縁部外面	縄文土器	120	富岡町	後作 A 遺跡	大洞 C Ⅱ式併行期	胴部外面						
40				口縁部～胴部外面		121	南相馬市	君ヶ沢 B 遺跡	明戸式併行期	胴部外面						
41						縄文条痕文土器	口縁部外面	122	磐梯町	角間遺跡	御代田式	口縁部外面				
42	飯館村	仁井殿遺跡	大畑 G 式併行期	胴部内面		縄文土器	123	南御山 2 式	胴部外面		弥生土器					
43				胴部外面			124		会津若松市	一ノ堰 B 遺跡		胴部～底部内面	No 124・125 は同一個体			
44	富岡町	本町西 A 遺跡	野島式・槻木 1 式	胴部外面			No 43・44 は同一個体	125	二ツ釜式	底部外面						
45				胴部外面				126	会津坂下町	鬼渡 A 遺跡	大洞 C Ⅱ式	口縁部～胴部内面	No 126・127 は同一個体	縄文土器		
46	小野町	西田 H 遺跡	花積下層式	口縁部外面			127	口縁部外面								
47				胴部内面			128	会津若松市	一ノ堰 B 遺跡	二ツ釜式	体部外面					
48			大木 1 式併行期	口縁部外面			129	口縁部外面		弥生土器						
49	相馬市	狹平遺跡		胴部内面			130	飯館村	岩下 A 遺跡		今和泉式	口縁部外面				
50				口縁部外面	131		胴部内面									
51		大木 1 式併行期	花積下層式	口縁部外面	132		岩下 D 遺跡	大洞 A 式	体部内面	No 132・133 は同一個体	縄文土器					
52	口縁部外面			133	体部外面											
53					口縁部外面	134	須賀川市	牡丹平遺跡	御代田式	胴部内面		弥生土器				
54	福島市	獅子内遺跡	大木 1 式併行期	胴部内面	135	白河市	赤坂裏 A 遺跡	明戸式併行期	底部内面							
55				口縁部外面	136	会津若松市	屋敷遺跡		胴部外面		土師器					
56	相馬市	狹平遺跡	花積下層式	口縁部外面	137				和泉遺跡	塩釜式		胴部外面				
57				胴部内面	138	檜葉町	下小塙上ノ原遺跡	天神原式	体部内面		弥生土器					
58	福島市	獅子内遺跡	大木 1 式併行期	口縁部～胴部内面	139	天栄村	坂口 A 遺跡	今和泉式	口縁部外面							
59				胴部内面	140	飯館村	羽白 C 遺跡	大洞 A Ⅰ式	体部外面		縄文土器					
60	富岡町	本町西 A 遺跡	大木 4 式	口縁部内面	141	白河市	泉川遺跡	鶴刈島台式	胴部内面	No 141・142 は同一個体						
61				胴部内面	142				胴部外面							
62				口縁部内面	143				会津美里町	鶯沢遺跡	大木 2 b 式	胴部～外面		縄文土器		
63	飯館村	宮内 A 遺跡	大木 8 b 式	口縁部内面	144	下郷町	南倉沢遺跡	浮島Ⅱ式	胴部外面							
64				口縁部内面	145	飯館村	宮内 A 遺跡	十腰内 2 式併行	口縁部外面							
65	飯館村	角間遺跡	大木 8 a 式	口縁部内面	146	磐梯町	角間遺跡	加曾利 B Ⅱ式	口縁部内面		弥生土器					
66				口縁部内面	147				飯館村	羽白 C 遺跡		大洞 C Ⅱ式	胴部内面			
67				口縁部内面	148				大洞 B Ⅱ式	胴部内面						
68	飯館村	羽白 C 遺跡	大木 7 b ～ 8 a 式	口縁部内面	149	矢吹町	赤沢 A 遺跡	明戸式併行期	口縁部～外面	No 149・150 は同一個体						
69				口縁部内面	150				胴部内面							
70				口縁部外面	151	会津坂下町	大村新田遺跡	稲荷台式	胴部内面		縄文土器					
71	磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	大木 7 a 式	口縁部内面	152				浪江町	田子平遺跡		大洞 B C 式	胴部外面			
72				口縁部外面	153				南相馬市	広谷地遺跡		北前式	口縁部外面			
73				口縁部外面	154	檜葉町	馬場前遺跡	大木 8 a 式	口縁部内面	ミニチュア土器						
74	飯館村	大木 7 b 式	大木 7 b 式	口縁部外面	155	飯館村	上ノ台 A 遺跡	縄文時代中期末～後期初頭	底部内面			縄文土器				
75				胴部外面	156	郡山市	北向遺跡	縄文時代中期末～後期初頭	口縁部内面	No 156・159 は同一個体						
76				口縁部内面	157		胴部内面									
77	飯館村	大木 7 b 式	大木 7 b 式	口縁部内面	158	白河市	赤坂裏 A 遺跡	天王台式	胴部外面		弥生土器					
78				口縁部内面	159	郡山市	北向遺跡	縄文時代中期末～後期初頭	胴部外面	No 156・159 は同一個体						
79				口縁部内面	160	浪江町	田子平遺跡	常世 1 式併行	胴部内面			縄文土器				
80	飯館村	大木 8 a 式	大木 8 a 式	口縁部外面		合計 160点										
81				口縁部内面												

(3) 指定文化財展

「渦文―時を超える文様―」

会期:令和元年9月28日(土)～12月15日(日)
(開催日数68日間)

観覧者数:4,812名

1) 趣旨

縄文時代から現代まで、文様表現として度々現れては消えてゆく渦巻文様をテーマにした展

示。時代ごとに特徴的な渦巻文の施文方法や形態を紹介し、その時々々の渦巻文様の意味を来館者に考えてもらい、文化財への探求心と親しみを深めてもらうことを意図した。

展示資料をキャラクター化した「ぐるぐる学園」のメンバー（ぐるぐる先生・たらこくん・いものくん・おやっじ・おはなちゃん）が問答しながら解説していく展示パネルを設置し、子

「渦文」展示資料一覧

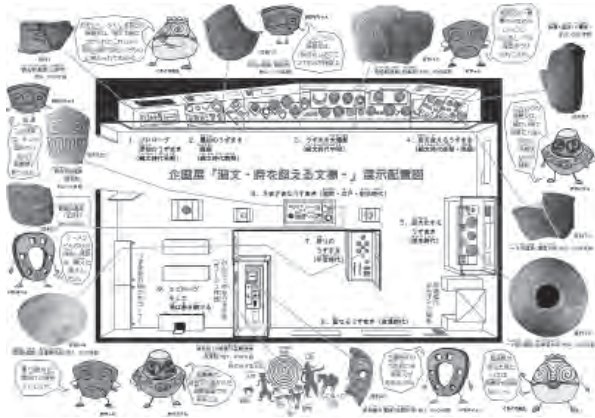
遺跡名	資料名	点数	所蔵
蛇石前遺跡	縄文土器（深鉢）	1	福島県教育委員会
塩喰岩陰遺跡	縄文土器（深鉢）	2	福島県教育委員会
小滝遺跡	縄文土器（深鉢）	1	福島県教育委員会
上田郷VI遺跡	縄文土器（深鉢）	2	福島県教育委員会
上田郷VI遺跡	土偶	1	福島県教育委員会
塩喰岩陰遺跡	縄文土器（深鉢）	1	福島県教育委員会
荻平遺跡	縄文土器（深鉢）	2	福島県教育委員会
獅子内遺跡	縄文土器（深鉢）	2	福島県教育委員会
猪倉B遺跡	縄文土器（深鉢）	1	福島県教育委員会
本町西C遺跡	縄文土器（深鉢）	1	福島県教育委員会
西田H遺跡	縄文土器（深鉢）	1	福島県教育委員会
羽白D遺跡	縄文土器（深鉢）	2	福島県教育委員会
角間遺跡	縄文土器（深鉢）	1	福島県教育委員会
南倉沢遺跡	縄文土器（深鉢）	2	福島県教育委員会
鹿島遺跡	縄文土器（深鉢）	1	福島県教育委員会
法正尻遺跡	縄文土器（深鉢）	8	福島県教育委員会
法正尻遺跡	縄文土器（人面状把手）	1	福島県教育委員会
法正尻遺跡	土偶	2	福島県教育委員会
植松C遺跡	縄文土器（深鉢）	2	福島県教育委員会
七郎内C遺跡	縄文土器（器台）	1	福島県教育委員会
七郎内C遺跡	土偶	1	福島県教育委員会
八方塚A遺跡	縄文土器（深鉢）	1	福島県教育委員会
馬場前遺跡	縄文土器（深鉢）	1	福島県教育委員会
桑名邸遺跡	縄文土器（深鉢）	1	福島県教育委員会
馬場前遺跡	縄文土器（深鉢）	1	福島県教育委員会
前山A遺跡	縄文土器（深鉢）	1	福島県教育委員会
上ノ台A遺跡	縄文土器（深鉢）	2	福島県教育委員会
上ノ台A遺跡	縄文土器（把手付深鉢）	1	福島県教育委員会
上ノ台A遺跡	縄文土器（台付鉢）	1	福島県教育委員会
高木遺跡	縄文土器（蓋）	1	福島県教育委員会
高木遺跡	縄文土器（深鉢）	2	福島県教育委員会
高木遺跡	土偶	1	福島県教育委員会
柴原A遺跡	縄文土器（深鉢）	3	福島県教育委員会
柴原A遺跡	土偶	1	福島県教育委員会
一斗内遺跡	土版	1	福島県教育委員会
羽白C遺跡	獣形土製品	1	福島県教育委員会
羽白C遺跡	土偶	1	福島県教育委員会
トロミ遺跡	縄文土器（深鉢）	1	福島県教育委員会
荒小路遺跡	縄文土器（深鉢）	1	福島県教育委員会
荒小路遺跡	縄文土器（壺）	2	福島県教育委員会
川原遺跡	縄文土器（注口付土器）	1	福島県教育委員会
羽白D遺跡	土偶	1	福島県教育委員会
浜井場B遺跡	土偶	1	福島県教育委員会
田子平遺跡	縄文土器（浅鉢）	1	福島県教育委員会
田子平遺跡	土笛	1	福島県教育委員会
田子平遺跡	縄文土器（注口付土器）	1	福島県教育委員会
稲荷塚B遺跡	縄文土器（浅鉢）	1	福島県教育委員会
塩喰岩陰遺跡	縄文土器（皿）	1	福島県教育委員会
一斗内遺跡	縄文土器（浅鉢）	1	福島県教育委員会

遺跡名・時代	資料名	点数	所蔵
羽白C遺跡	縄文土器（壺）	1	福島県教育委員会
岩下B遺跡	縄文土器（浅鉢）	1	福島県教育委員会
松ヶ作A遺跡	弥生土器（浅鉢）	1	福島県教育委員会
岩下A遺跡	弥生土器（鉢）	1	福島県教育委員会
孫六橋遺跡	弥生土器（鉢）	1	福島県教育委員会
孫六橋遺跡	弥生土器（蓋）	1	福島県教育委員会
一ノ堰B遺跡	弥生土器（壺）	3	福島県教育委員会
屋敷遺跡	弥生土器（壺）	1	福島県教育委員会
五畝田・犬這遺跡	弥生土器（壺）	1	福島県教育委員会
能登遺跡	弥生土器（壺）	1	福島県教育委員会
能登遺跡	弥生土器（蓋）	1	福島県教育委員会
会津大塚山古墳	三角縁神獣鏡（復元）	1	福島県教育委員会
跡見塚古墳	鉄製象嵌鐔	1	福島県立博物館
跡見塚古墳	鉄製象嵌鐔（復元品）	1	福島県教育委員会
中田横穴	鉄製円筒把頭	1	いわき市教育委員会
中田横穴	鉄製円筒把頭（復元品）	1	福島県教育委員会
早稲田古墳群	鉄製象嵌鐔	1	福島県教育委員会
観音山横穴墓群	木製柄木	1	白河市教育委員会
大猿田遺跡	土師器（杯）	1	福島県教育委員会
鶴沼B遺跡	土師器（杯）	2	福島県教育委員会
西木流D遺跡	須恵器（杯）	1	福島県教育委員会
向田A遺跡	獣脚鋳型	1	福島県教育委員会
向田A遺跡	獣脚鋳型復元品と獣脚	1	福島県教育委員会
笹目平遺跡	小刀	1	福島県教育委員会
北大久保E遺跡	蕨手刀	1	福島県教育委員会
後田A遺跡	陶器（大土瓶）	1	福島県教育委員会
後田A遺跡	陶器（瓶掛形火鉢）	1	福島県教育委員会
後田A遺跡	大堀相馬陶器（猪口）	1	福島県教育委員会
善光寺遺跡	瀬戸灰釉薬陶器（瓶子）	1	福島県教育委員会
観音山遺跡	瓦質土器（火舎）	1	福島県教育委員会
観音山遺跡	磁器（鉢）	1	福島県教育委員会
観音山遺跡	磁器（皿）	1	福島県教育委員会
観音山遺跡	陶器（湯呑碗）	1	福島県教育委員会
観音山遺跡	陶器（搗鉢）	1	福島県教育委員会
観音山遺跡	軒平瓦	1	福島県教育委員会
観音山遺跡	磁器（徳利）	1	福島県教育委員会
今神遺跡	肥前磁器（猪口）	2	福島県教育委員会
今神遺跡	色絵磁器（徳利）	1	福島県教育委員会
今神遺跡	肥前磁器（仏飯器）	1	福島県教育委員会
堀ノ内遺跡	陶器（碗）	1	福島県教育委員会
堀ノ内遺跡	陶器（徳利）	1	福島県教育委員会
大森遺跡	磁器（湯飲碗）	1	福島県教育委員会
鍛冶久保遺跡	陶器（火灸）	1	福島県教育委員会
鍛冶久保遺跡	肥前磁器（蓋物）	1	福島県教育委員会
梅沢館跡	磁器（茶碗）	1	福島県教育委員会
羽黒山館跡	陶器（小皿）	1	福島県教育委員会
南川尻A遺跡	磁器（徳利）	1	福島県教育委員会
法正尻遺跡	縄文土器（深鉢）	1	福島県教育委員会

供にも分かりやすい解説を心掛けた。

解説資料は、一般向けの小冊子と子供向けの一枚物を用意した。

また、会期中、10月12日・11月3日・11月23日に展示解説会を実施した。



「渦文」子供用解説資料

2) 展示の構成と内容

展示室の配置を大きな渦巻状とし、来館者は左側を見ながら時計回りに渦の中心まで進み、半時計回りに入口付近にもどる順路とした。

①プロローグ 原初のうずまき（縄文時代早期）

巻貝や蝶の口、流水の中の渦や植物の蔓などの自然の中の渦巻写真と、土器に表現された渦巻を展示。土器文様中に現れた入組状のモチーフが渦巻へと変化する状況を解説した。

②最初のうずまき隆盛（縄文時代前期）

花積下層式土器に見られる円形刺突文から縄文原体側面圧痕の蕨状文、渦巻文への文様変化を紹介した。また、大木3式土器から大木6式土器の渦巻文も展示した。

③うずまき大爆発（縄文時代中期）

縄文時代前期後葉の大木6式土器から中期終末の大木10式土器までの、渦巻文の表現位置や技法、数などに注目してその盛衰を解説した。重ねて、この時期の土偶に見られる渦巻文も紹介した。

④姿を変えるうずまき（縄文時代後・晩期）

縄文時代後期は、集合沈線の入組状の渦巻文、縄文時代晩期は、雲形文の中に組み込まれた渦巻文を、土器、土偶、土版などから解説した。

⑤巨大化するうずまき（弥生時代）

弥生時代前期から中期にかけての壺形土器を

中心にみられる変形工字文から渦巻文への文様の変化と渦巻の巨大化傾向を紹介したほか、弥生時代後期に復活する入組状の渦巻も解説した。

⑥聖なるうずまき（古墳時代）

県内の横穴墓に描かれた装飾壁画に見られる渦巻文を写真パネルで展示するとともに、刀装具の象嵌などに表現された渦巻文を紹介した。また、泉崎4号横穴の2分の1模型を作成し、3方の壁面と天井の壁画を見上げるように鑑賞できるようにした。

⑦祈りのうずまき（平安時代）

土師器の杯に描かれた目を象った墨書の渦巻、鉄製容器の鋳型に見られる唐草文中の渦巻、蕨手刀の柄尻の渦巻を紹介した。

⑧さまざまなうずまき（室町・江戸・明治時代）

室町時代の陶器に押された印判の雷文や江戸・明治時代の磁器に染付で描かれた蛸唐草や雲文中の渦巻等を紹介した。

⑨エピローグ そして渦は巻きつづける

参加型の展示として、来館者が描いた渦巻画を学芸員が組み合わせておおきな渦巻画を作りあげてゆく「うずまきコラージュ」のコーナーを設けた。また、清戸迫76号横穴の3D計測動画をパソコンで上映した。

3) 成果と反省

時間・空間に限定されないテーマ展として実施したことにより、来館者に新鮮な印象を与えることができた。また、展示パネル等の工夫により、10代の来館者の感想も好意的なものが多く、全体的に「分かりやすい」という感想をもらうことができた。エピローグの「うずまきコラージュ」には多くの参加があった。

なお、展示解説を問答形式にしたため、展示品の解説が大雑把になり、展示パネルだけでは理解し難い部分があった。また、3D計測動画をノートパソコンで流したため、画面が小さいとの指摘があった。

（4）ふくしま歴史探訪展

「ふくしま鉄ものがたり—鉄滓の山から読み解く歴史—」

会期：令和2年2月1日（土）～3月29日（日）
（開催日数50日間）

観覧者数：2,723人

1) 趣旨と方法

福島県域はかつて古代律令国家を代表する鉄生産地であった。これまでに見つかった製鉄遺構の数は300基を超え、発掘調査例においては全国一の数を誇る。このうち、当館には浜通り地方の275基の製鉄遺構から出土した膨大な量の遺物が収蔵されており、これも日本有数の規模である。

展示では、これまであまり公開することのなかった鉄滓などの製鉄関連遺物や分析に供した資料を数多く展示し、古代製鉄技術の一端を来館者に感じてもらえるよう努めた。また、列島各地の影響を受けながら、福島県域独自の技術へと発展した実態を考古学や関連科学の立場から解き明かし、その研究成果の一部を紹介した。

2) 展示の構成と内容

これまでの研究のあゆみや製鉄炉の変遷について、8つのコーナーを設けて展示した。

①福島県製鉄遺跡研究のあゆみ

浜通り地方の古代・中世製鉄遺跡の調査年表や製鉄炉数・製鉄関連遺物量などの集計表、製鉄炉ごとの遺物量をランキングで示した「廃滓番付表」などを作成し、研究の現状を紹介した。

②一に粉鉄、二に木山、三に元釜土

江戸時代の『鉄山秘書』の一節を紹介しながら、製鉄遺構から出土した砂鉄・木炭・粘土などを展示した。

③箱形炉の変遷

7世紀中葉に浜通り地方に伝播した製鉄技術が、8世紀、さらに9世紀を通じてどのように変容したか、その背景は何であったのかを鉄滓や炉壁などとともに紹介した。

④国指定史跡 横大道製鉄遺跡の構造

横大道製鉄遺跡については、製鉄炉ごとに技術が変容していった様子などを示した。また、遺構配置図などを展示し、現在でも遺構が良好に遺存している様子を紹介した。

⑤竪形炉の変遷

楡葉町南代遺跡の出土資料を中心に、8世紀中葉から9世紀前葉にかけて、通風管がどのように変化したかを展示した。

⑥箱形炉から円筒炉へ

9世紀末葉から10世紀に登場したと考えられている円筒形自立炉について、炉壁などの接

合資料を中心に展示した。

⑦大型遺物コーナー

長さが1mを超えるような炉底滓や流出滓を一堂に並べて展示した。また羽口が装着された炉壁など炉形態や炉高、送風方法が分かる資料を展示した。

⑧製鉄遺跡の科学

成分分析などの金属学の成果をもとに、古代の製鉄技術の解明に向けた取り組みをパネルで展示した。

なお、会期中の2月8日・2月16日・2月29日・3月14日に展示解説会（ギャラリートーク）を行った。



「ふくしま鉄ものがたり」

4) 成果と反省

来館者からは、福島県で古代において製鉄が盛んであったことに驚いた、といった意見が多く聞かれた。特にプロムナードギャラリーに大きく掲示した福島県製鉄関連遺跡分布図を見て、遺跡をより身近に感じてもらったことや、新たに製鉄遺跡が増えることへの期待が寄せられたことは、大きな成果であった。

また、展示期間中は、鉄鋼関係の仕事に従事している人や、「鉄づくり」に魅力を感じている方が数多く来館された。古代の製鉄技術をめぐる議論が考古学だけでなく、さまざまな分野の人々に関心をもたれていることを再認識した。

来館者からは、より詳しい解説資料やパネルを求める意見があった。製鉄遺跡の構造を理解し、展示に反映するには、考古学のみならず、金属学・地質学など多くの学際研究成果をより深く、よりやさしく表現することが重要であり、

「ふくしま鉄ものがたり」展示資料一覧

市町村名	遺跡名	点数	備考
新地町	向田 A 遺跡	1	※1
新地町	向田 E 遺跡	3	※1
新地町	向田 G 遺跡	2	※1
新地町	洞山 D 遺跡	7	※1
新地町	沢入 B 遺跡	2	※1
新地町	大清水 B 遺跡	6	※1
新地町	南狼沢 A 遺跡	5	※1
新地町	鈴山遺跡	2	※1
相馬市	猪倉 A 遺跡	3	※1
相馬市	猪倉 B 遺跡	1	※1
相馬市	山田 A 遺跡	5	※1
相馬市	鷲塚 B 遺跡	3	※1
相馬市	大森遺跡	3	※1
相馬市	北迫 A 遺跡	5	※1
南相馬市	鍛木沢 B 遺跡	2	※1
南相馬市	立ノ沢遺跡	1	※1
南相馬市	仲山 B 遺跡	2	※1
南相馬市	中山 C 遺跡	2	※1
南相馬市	割田 C 遺跡	2	※1
南相馬市	割田 E 遺跡	2	※1
南相馬市	割田 H 遺跡	4	※1
南相馬市	大迫遺跡	5	※1
南相馬市	谷地中遺跡	1	※1
南相馬市	天化沢 A 遺跡	5	※1
南相馬市	鳥井沢 B 遺跡	7	※1
南相馬市	鳥打沢 A 遺跡	16	※1
南相馬市	鳥打沢 B 遺跡	6	※1
南相馬市	長瀬遺跡	32	※1
南相馬市	大船迫 A 遺跡	56	※1
南相馬市	萩原遺跡	5	※1
南相馬市	横大道製鉄遺跡	57	※1
南相馬市	館越遺跡	12	※1
南相馬市	大田和広畑遺跡	1	※1
大熊町	上平 A 遺跡	1	※1
富岡町	滝川製鉄遺跡	8	※2
富岡町	後作 B 遺跡	3	※2
檜葉町	南代遺跡	15	※1
その他	鉱物標本	7	※3
計	37遺跡	300	

※1 福島県文化財センター白河館収蔵
 ※2 富岡町歴史民俗資料館所蔵
 ※3 個人蔵

種別点数

種 別	点数
鉄器	3
鉄塊	16
鉄塊系遺物	2
土師器・須恵器	11
羽口	66
木呂羽口切取資料	1
通風管	21
炉壁	85
木舞台座	1
砂鉄焼結塊	2
炉内滓	14
炉底滓	23
流出滓	27
再結合滓	1
砂鉄	14
鉄鉱石	8
木炭	2
粘土	2
木炭窯断面切取資料	1
計	300

見学者の多様な知的欲求を満たすことができたのではないかと考えている。

製鉄関連遺物については土器や石器と違って初めて見た人が多く、学芸員から解説を聞いてようやく製鉄炉の形がイメージできた、鉄滓がどのようにできるのかが分かったとの意見があった。製鉄炉の炉形や炉高などを正確に復元する研究はいまだ途上の段階にあるが、一般にイメージしやすい工夫は必要であったと感じた。

3. 講演会等

(1) 館長講演会

令和元年度は、館長講演会を5回開催した。第3回においては、福島県立相馬高等学校郷土部の生徒による「相馬高校郷土部の歩み」と題する報告を行い、報告後に館長との対談を行った。



第3回館長講演会

(2) 文化財講演会等

企画展と関連したテーマの文化財講演会・文化財講座を計5回開催した。なお、令和2年3月7日・8日に開催を予定していたシンポジウム「鉄の道をたどる」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

1) 文化財講演会

① 縄文土器編年と放射性炭素年代測定—縄文時代早・前期を中心に—

企画展「時を測る—縄文・弥生時代の年代—」の関連講演会で、株式会社加速器分析研究所の早瀬亮介氏を講師に迎えた。土器の編年研究及び放射性炭素年代の歴史と方法、両者を組み合わせた研究の成果と課題を、当館が過年度実施

した調査研究から、縄文時代早期末葉から前期初頭の例を取り上げて解説した。

②気候変動と人類の歴史—おだやかな時代はいつまで続くのか—

企画展「時を測る—縄文・弥生時代の年代—」の関連講演会で、立命館大学総合科学技術研究機構古気候学研究センター長である中川毅氏を講師に迎えた。講演では、講師が主導した福井県水月湖底の年縞堆積物研究の成果から、5万年にわたる年縞の年代や、年縞から読み取ることのできる過去の気候変動と未来の予測について解説が行われた。

③福島県の横穴壁画を解く—渦文の宇宙—

企画展「渦文—時を超える文様—」の関連講演会で、古代の図像学の第一人者である元同志社大学教授の辰巳和弘氏を講師に迎えた。古墳の石室に描かれた渦文や円文は「邪」を退ける意味があるとの視点から、県内の横穴古墳内の渦文について解説した。また、狩猟図を現世との境とする図像、水玉模様を死後の世界に瞬く星とする解釈から、壁画は古墳内を結界とし、「他界の王宮」とするためのものと解説した。

④縄文土器の文様の描き方

企画展「渦文—時を超える文様—」の関連講演会で、縄文時代晩期の亀ヶ岡式土器の文様構造の研究で著名な、元弘前大学教授の藤沼邦彦氏を講師に迎えた。原始から現代まで各時代に

現れる様々な渦巻文様の紹介、現代の漫画等にみられる人の頬の渦巻との比較や、縄文土器の装飾文様の描き方が、現代の絵描き歌のような簡単に記憶しやすい情報形態として伝承されていたであろうとの解釈について解説した。



文化財講演会「縄文土器の文様の描き方」

2) 文化財講座

企画展「時を測る—縄文・弥生時代の年代—」に合わせて、当館が平成26～30年度に実施した当館収蔵品の放射性炭素年代測定、炭素・窒素安定同位体比分析の成果について当館職員が解説を行った。講座の最後には、同日に開催した文化財講演会の講師である中川毅氏から、考古学の事象から見える当時の気候変動についてコメントをいただいた。

講演会等実施状況

館長講演会	演 題		実施日	受講者数
	第1回「大正11年、ピラミッド頂上の日章旗—ツタンカーメンのミイラが甦った時代—」		令和. 5.25	31名
	第2回「考古学から心を探るために—先史～古代日本の精神文化—」		令和. 7.27	39名
	第3回「『縄文世界遺産』はいまどうなっているのか？—推薦書提出に向けての諸課題—」		令和. 9.28	35名
	第4回「文化財保護法等の改定と世界遺産の理念—首里城の火災に思う—」		令和.12.14	35名
	第5回「考古ニュースを解説する」		令和. 2. 8	38名
文化財講演会等	演 題	講 師	実施日	受講者数
	講演会「縄文土器編年と放射性炭素年代測定—縄文時代早・前期を中心に—」	早瀬亮介（加速器分析研究所）	令和. 6.22	60名
	講 座「縄文時代・弥生時代の年代」	三浦武司（白河館職員） 笠井崇吉（白河館職員）	令和. 8.12	72名
	講演会「気候変動と人類の歴史—おだやかな時代はいつまで続くのか—」	中川 毅（立命館大学古気候学研究センター長）	令和. 8.12	82名
	講演会「福島県の横穴壁画を解く—渦文の宇宙—」	辰巳和弘（元同志社大学教授）	令和.10.12	22名
	講演会「縄文土器の文様の描き方」	藤沼邦彦（元弘前大学教授）	令和.11.23	55名
	シンポジウム「鉄の道をたどる」	能登谷宣康（福島県文化振興財団遺跡調査部） 板谷 宏（日本鉄鋼協会「鉄の技術と歴史」研究フォーラム顧問） 下山貴生（宮城県多賀城跡調査研究所） 笹澤泰史（群馬県教育委員会事務局文化財保護課） 高崎直成（ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館） 大道和人（滋賀県教育委員会事務局文化財保護課）	令和. 3. 7 ～8	中止
合計				469名

4. 体験学習・イベント

(1) いつでもできる体験学習

1) 個人利用者対象メニュー

常設の体験スペースである体験活動室を中心に、個人の来館者を対象に実施しているメニューで、平成30年度までは、体験活動室メニューと呼んでいたものである。

令和元年度は、通年で実施している「勾玉づくり」「管玉づくり」「火おこしに挑戦」の3メニューと季節ごとに変わる「まほろんクイズラリー」、月毎に変わる26種類のメニューを実施した。



「勾玉づくり」

「まほろんクイズラリー」は、展示に係る問題を解きながら屋内外を巡るメニューで、3か月毎に春夏秋冬の4回内容を変えて実施した。

月毎に変わるメニューは、企画展や季節の行事に関連させたテーマを設け、有料のメニューと無料のメニューを各1種類以上実施している。令和元年度に新たに加わったメニューは、「石製模造品づくり」「革製キーケースづくり」「オリジナル名刺づくり」「オリジナルポチ袋づくり」である。その他は過去に実施したメニューであるが、その時々テーマに沿って適宜マイナーチェンジを加えて実施した。

なお、3月に実施を予定していた「螺鈿アクセサリーづくり」「ズボンボづくり」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

個人利用者対象メニューの内容と体験者数は別表のとおりである。

個人利用者対象メニュー実施状況

テーマ(実施期間)	内容(体験料)	参加人数
春の門出の飾り紐づくり (4/2～4/26)	組紐でストラップづくり(110円)	104名
	衣装体験(無料)	50名
	おきあがりこぼしづくり(無料)	69名
コンボを目指せ! 古墳時代の宝物 (4/27～5/31)	石製模造品づくり(剣形)(100円)	381名
	石製模造品づくり(鏡形)(100円)	11名
	古墳時代風衣装体験(無料)	46名
	かぶれる鯉のぼりづくり(無料)	288名
水無月みんなでミニ土器 づくり(6/1～6/30)	ミニ土器づくり(130円)	112名
	拓本切り絵体験(無料)	110名
開いてびっくり 折染め体験 (7/2～7/31)	折染め団扇づくり(200円)	196名
	ペーパーバイザーづくり(縄文土器)(無料)	98名
	七夕短冊づくり(無料) ※7/2～7/7実施	84名
原始模様を持ち歩け (8/1～8/31)	革製キーケースづくり(500円)	62名
	JOMONエコバッグづくり(200円)	177名
	ペーパーバイザーづくり(弥生土器)(無料)	82名
秋の編物クラフト (9/1～9/29)	編物コースターづくり(100円)	91名
	オリジナル名刺づくり(無料)	87名
挑戦、ガラスのスパイラル (10/1～10/31)	ガラス玉づくり・渦(150円)	234名
	拓本コラージュづくり(無料)	40名
顔料で描く聖なる形 (11/1～11/30)	装飾壁画描画体験(200円)	51名
	オリジナルヤジロペーづくり(無料)	79名
師走のミニ飾りづくり (12/1～12/27)	ミニしめ縄づくり(100円) 12/1～12/15	147名
	ミニ門松づくり(100円) 12/17～12/27	196名
	オリジナルポチ袋づくり(無料)	183名
自分でつくる正月玩具 (1/5～1/31)	凧づくり(150円)	208名
	ペーパーつむ独楽づくり(無料)	241名
節分・瑠璃玉・雛まつり (2/1～2/28)	ガラス玉づくり・斑(150円)	169名
	お面づくり(無料)	127名
	お雛様づくり(150円) 2/18～2/28	76名
貝を使ったエトセトラ (3/1～3/31)	螺鈿アクセサリーづくり(200円)	中止
	ズボンボづくり(無料)	
季節実施メニュー	まほろんクイズラリー(春) 4・5・6月(無料)	795名
	まほろんクイズラリー(夏) 7・8・9月(無料)	637名
	まほろんクイズラリー(秋) 10・11・12月(無料)	423名
	まほろんクイズラリー(冬) 1・2・3月(無料)	254名
通年実施メニュー	勾玉づくり(有料)	924名
	管玉づくり(有料)	13名
	火おこしに挑戦(無料)	2,198名
合計		9,043名



「革製キーケースづくり」

2) 団体利用者対象メニュー

事前予約の必要な団体利用者向けの体験メニューとして全16種類を用意した。

「グループで考えよう（うつわ・はもの）」は、収蔵資料を活用したグループ学習である。前年度に実施した石器から金属製品への〈はもの〉の変遷に加え、各時代の〈うつわ〉のかげらの変遷や分類をグループごとに話し合い、発表してもらった。

新規メニューの「まほろんお仕事見学」は、従来から行っていた収蔵庫見学に加え、撮影室などの他の施設や学芸員の仕事の一部を紹介しながらのバックヤードツアーである。



「まほろんお仕事見学」

相対的な体験者数は前年度と同様の傾向がみられるが、団体利用数が減少する中で「ミニチュア土器・埴輪づくり」の体験者数が伸びている。なお、表に含まれないメニューは利用実績がなく、網掛けのメニューは特別支援学校向けに臨時的に実施したものである。

団体利用者対象メニュー実施状況

内容	参加人数	内容	参加人数
勾玉づくり	2,248名	粘土で勾玉をつくろう	43名
火おこしに挑戦	2,863名	拓本に挑戦	9名
土器や石器を観察しよう	1,321名	昔のあそび・昭和のあそび	29名
本格的な土器づくり	93名	昔の道具にふれてみよう	522名
土笛・土鈴づくり	21名	グループで考えよう (うつわ・はもの)	525名
ミニチュア土器づくり	341名	まほろんお仕事見学	166名
ミニチュア埴輪づくり	313名	お正月飾りづくり	18名
※特別支援学校対応		合計	8,512名

3) 特別体験メニュー

ゴールデンウィーク及び小・中学校の夏休み期間とイベント開催時において限定的に実施する体験メニューで、令和元年度は、下表に示した22種類の特別メニューを実施した。

特別体験メニュー実施状況

イベント名	実施日	来館者人数	特別体験(体験料)	参加人数
ゴールデンウィーク まほろん特別体験	平31.4.27 ～令和.5.6	2,329名	ミニ三角縁神獣鏡みがき体験(500円)	225名
			剣形石製模造品づくり(100円)	332名
			甲冑を着てみよう(無料)	8名
			丸木舟づくり(無料)	189名
			弓矢体験(無料)	724名
まほろん夏休み 特別体験	令和.8.10 ～18	1,402名	瑛状耳飾りづくり(200円)	79名
			投げモリ体験(無料)	340名
			丸木舟づくり(無料)	81名
			バックヤードツアー(無料)	130名
まほろん感謝デー	令和.11.3	641名	うずまき模様のエコバッグづくり(200円)	96名
			唐草模様の猫あしキャンドル(200円)	56名
			象嵌キーホルダーづくり(50円)	103名
			紙とんぼをつくろう(無料)	135名
			弓矢体験(無料)	234名
			ぐるぐるクイズラリー(無料)	166名
まほろん冬まつり	令2.2.16	520名	チョコっといもの体験(200円)	131名
			革製キーケースづくり(300円)	75名
			縄文時代のアクセサリづくり(100円)	87名
			ペーパークラフト風車(無料)	120名
			ペーパークラフト蔵手刀(無料)	80名
			ふいごシューティング(無料)	249名
			まほろんクイズラリー(無料)	130名
合計		4,892名	合計	3,174名



「投げモリ体験」

ゴールデンウィークまほろん特別体験の「ミニ三角縁神獣鏡みがき体験」「甲冑を着てみよう」

う」「剣形石製模造品づくり」、まほろん夏休み特別体験の「投げモリ体験」「玦状耳飾りづくり」、まほろん感謝デーの「うずまき模様のエコバッグづくり」「唐草模様の猫あしキャンドル」、まほろん冬まつりの「チョコっといもの体験」「革製キーケースづくり」「ふいごシューティング」「ペーパークラフト蕨手刀」は、特別体験メニューとしては、新しいメニューである。

(2) 募集型体験学習

1) 実技講座

出土品や日本の伝統文化に関連した「モノづくり」により、原始・古代の技術を追体験することを目的としたもので、事前に受講者を募集して行う体験講座である。令和元年度は、考古資料を参考とした4講座(全10回)を実施した。

実技講座実施状況

イベント日	実施日	参加者数
カラムシコースターづくり①刈り取り・芋ひき	令和元.7.21	3名
カラムシコースターづくり②糸づくり	令和元.7.28	3名
カラムシコースターづくり③アンギン編み	令和元.9.1	3名
土器づくり初級編①土器づくり	令和元.8.4	4名
土器づくり初級編②野焼き	令和元.9.29	0名
縄文時代のオカリナづくり	令和元.8.25	16名
縄文土器づくり上級編①成形・施文	令和2.1.18	10名
縄文土器づくり上級編②施文・赤彩	令和2.1.19	10名
縄文土器づくり上級編③ミガキ	令和2.1.21～23	13名
縄文土器づくり上級編④野焼き	令和2.3.1	8名
合計		70名

小・中学生を対象とした講座については、実施日を夏休み期間中の土日に設定したが、参加者の反応は鈍かった。また、恒例となっているカラムシの布づくりの講座は、例年になく申込み数が伸びなかった。これらの講座については、内容・日時・広報などの課題が残った。

一方、「縄文土器づくり上級編」では遠方からの参加もあり、参加者の満足度も高かったようである。過年度の参加者からの要望に応じて、製作工程にミガキ調整の時間を設けたこと、赤彩土器の技術に挑戦できたことなどがその要因とみられる。



「縄文土器づくり上級編」

2) まほろんイベント

文化財の魅力とまほろんの活動を広く県民に伝え、利用者の幅を広げることを目的として、期間限定で実施する催しである。

令和元年度は、先の表に示したように、「ゴールデンウィークまほろん特別体験」「まほろん夏休み特別体験」「まほろん感謝デー」「まほろん冬まつり」の4回実施した。

「ゴールデンウィークまほろん特別体験」は、4月27日から5月6日までの10日間を開催期間とし、通常の体験メニューに加えて特別メニューを実施した。

同様に「まほろん夏休み特別体験」は、8月10日から8月18日までの9日間、通常メニューに特別体験メニューを加えて実施した。

「まほろん感謝デー」は、企画展「渦文一時を超える文様」の会期中に開催したため、渦巻文様をテーマとした体験メニューを実施した。また、アクアマリンふくしまの移動水族館「アクアラバン」や国立那須甲子青少年自然の家、那須高原ビジターセンターの協力による体験コーナーを設けた。

「まほろん冬まつり」は、企画展「ふくしま鉄ものがたり」の会期中に開催したため、製鉄にかかわる体験メニューのほか、過去に好評だった体験メニューを実施した。併せて福島県立図書館と国立那須甲子青少年自然の家の協力による体験コーナーを設けた。

3) まほろん森の塾

まほろん森の塾は、小・中学生を募集対象として実施する通年型の体験学習講座である。昔

のくらしや技術を体験することにより、参加者が文化財に対する理解と生きる力を身に着けることを目的に実施している。

令和元年度は全5回実施した。粘土製鋳型を用いたガラス玉づくり実験や、大豆の栽培から自作の味噌づくりを行い、味噌を用いた調理体験などを実施した。

まほろん森の塾実施状況

内容	実施日	参加人数
第1回 入塾式・大豆種まき・田植え	令和. 6.16	7名
第2回 すり鉢づくり・鋳型づくり	令和. 7. 7	7名
第3回 ガラス玉づくり	令和.10. 6	6名
第4回 味噌づくり	令和.11.10	6名
第5回 味噌を使った調理体験・活動報告会	令和.12.22	7名
合計		33名



まほろん森の塾

(3) 館外体験学習事業

本事業は、県内の学校や社会教育施設における体験学習を支援することを目的とした事業である。白河館への来館が困難であるなどの理由で申請のあった学校や諸施設に対して、職員が収蔵資料や体験学習資材を携えて出向き、文化財や地域の歴史に対する理解を深めるための事業を実施した。

前年度までは公民館などの社会教育施設を対象とするものを「出前講座」とし、小・中学校などの教育機関と分けていたが、令和元年度からは同じく「おでかけまほろん」として実施した。実施した学校・施設は15か所である。

体験活動の内容は、「土器や石器を観察しよう」を必須とし、「火おこしに挑戦」「勾玉づくり」「弓矢体験」「時代衣装体験」などを適宜加えて実施した。また、周辺史跡の見学などを盛り込む場合があった。



おでかけまほろん

おでかけまほろん実施状況

No.	学校名	学年・科目	体験内容	実施日	参加人数
1	会津若松市立神指小学校	小4・5年、総合	土器石器観察・神指城跡見学	令和. 6. 6	30名
2	会津美里町立新鶴小学校	小6年、社会	土器石器観察・勾玉づくり	令和. 6. 6	32名
3	古殿町立古殿小学校	小6年、社会	古殿町と周りの町の遺跡を学ぶ・土器石器観察・火おこし	令和. 6.13	42名
4	いわき市立入遠野小学校	小5・6年、社会	土器石器観察・火おこし	令和. 6.20	21名
5	郡山市立安子島小学校	小5・6年、社会・総合	土器石器観察・安子島城跡見学・火おこし	令和. 6.27	14名
6	伊達市立石田小学校	小5・6年、社会	土器石器観察・火おこし	令和. 7. 4	9名
7	福島県立会津支援学校竹田校	小学部6年・中学部、総合	土器石器観察・土器づくり体験	令和. 7.11	5名
8	平田村立小平小学校	小6年、社会・総合	平田の遺跡や文化財について学ぶ・土器石器観察・火おこし	令和. 7.18	22名
9	郡山市立御館小学校	小5・6年、社会	土器石器観察・時代衣装体験・弓矢	令和. 9. 5	25名
10	福島県立猪苗代支援学校	小1～6年、生活	昔の道具にさわる・時代衣装体験・弓矢	令和. 9.19	13名
11	二本松市立新殿小学校	小5・6年、社会	土器石器観察・火おこし	令和.11. 7	19名
12	南相馬市立原町第二小学校	小6年、社会	勾玉づくり・土器石器観察	令和.11.28	36名
13	田村市立船引南中学校	中1年、社会	土器石器観察・勾玉づくり・火おこし	令和.12. 5	26名
14	会津若松市南公民館	小4・6年	土器石器観察・勾玉づくり・火おこし	令和.12. 8	6名
15	福島県立西郷支援学校	高等部1～3年(重複学級)、総合	縄文風衣装体験・火おこし・土器石器観察・勾玉づくり	令和.12.19	11名
合計					311名

5 文化財に関する情報発信

1. ホームページによる情報発信

令和元年度のホームページアクセス数の推移を別表に示した。年間総アクセス数は51,148件であった（前年度：46,522件）。

なお、平成13年7月14日のホームページ開設以来の累計アクセス数は、81万件を超えた。

ホームページアクセス数

	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	5,995	773,313
5月	2,991	776,304
6月	3,865	780,169
7月	4,258	784,427
8月	4,185	788,612
9月	3,320	791,932
10月	3,558	795,490
11月	3,380	798,870
12月	3,716	802,586
1月	4,235	806,821
2月	6,166	812,987
3月	5,479	818,466
合計	51,148	

2. データベースによる情報提供

(1) アクセス数の推移

令和元年度の総アクセス数は、71,177件と、前年度（165,653件）に比べ減少した。東日本大震災発生後の復興関連工事にともなう需要により、平成26年度は80万件を超えるアクセスがあったが、以降はアクセス数が減少し続けている。

なお、従来の文化財データベースについては、令和2年2月で終了とし、翌3月から内容を刷新し、次の2項目をホームページ上に掲載した。

◆遺跡ピックアップ

白河館に資料が収蔵されている代表的な遺跡について、遺跡の場所・写真などを掲載した。

◆全国遺跡報告総覧 ver.福島県

埋蔵文化財の発掘調査報告書を全文電子化して、インターネット上で検索・閲覧できる「全国遺跡報告総覧」にリンクさせ、福島県の自治体等で発行されている埋蔵文化財調査報告書を検索・閲覧可能にした。

令和元年度の月ごとの各データベースのアクセス数（閉鎖した令和2年2月までのアクセス

数）は、下表のとおりである。

データベースアクセス数

	総アクセス数	各アクセス数			
		遺跡	遺物	文献	写真
4月	7,822	2,131	4,888	475	328
5月	6,696	1,542	3,685	690	779
6月	9,181	1,376	6,249	896	660
7月	8,527	1,582	6,082	601	262
8月	7,225	2,171	4,189	545	320
9月	6,520	1,578	4,174	493	275
10月	6,828	1,136	5,220	311	161
11月	5,877	2,301	2,988	363	225
12月	5,175	1,026	3,233	674	242
1月	5,806	1,435	3,602	517	252
2月	1,520	424	787	203	106
3月	0	0	0	0	0
合計	71,177	16,702	45,097	5,768	3,610

※3月分のアクセス数は、データベースの内容刷新に伴い、「0」となっている。

3. まほろん通信の発行

令和元年度は、年4回発行した。発行日は、4月16日・7月4日・10月18日・1月24日で、各4,000部を発行し、ホームページ上にも掲載した。概要は、以下のとおりとなっている。

(1) まほろん通信vol.71(春号4月16日発行)

- ・特集1「まほろん“春たけなわ”～団体でのご利用について～」
- ・特集2「縄文時代はじまりの頃」
- ・コラム「物の名前ってむずかしい」
- ・シリーズ収蔵資料紹介29「2万年前の狩人が置いていった槍」

(2) まほろん通信vol.72(夏号7月4日発行)

- ・特集1「土器から時を測る」
- ・特集2「カラムシから布をつくろう」
- ・シリーズ最新遺跡発掘調査情報4「伊達市中室内遺跡」
- ・コラム「坏のはなし」

(3) まほろん通信vol.73(秋号10月18日発行)

- ・特集1「ぐるぐる学園プロフィール」
- ・特集2「世界遺産への道のり」
- ・シリーズ収蔵資料紹介30「塩づくりの道具」
- ・コラム「かわいいもの大特集」

- (4)まほろん通信vol.74(冬号 1月24日発行)
- ・特集「福島古代鉄生産と百済王氏」
 - ・シリーズ保存科学の世界1「保存科学ってなんだ？」
 - ・シリーズ最新遺跡発掘調査情報5「バナナが1本ありました♪」
 - ・コラム「土器を食べる!？」



まほろん通信vol.71

6 文化財に関する研修及び技術支援

1. 概要

文化財関係業務を担当する市町村等の職員を対象に、文化財の保護・活用に必要な知識と技術を習得するための基礎研修・専門研修を行った。令和元年度は、文化財保護法改定に伴う文化財行政の課題や、最新の文化財調査方法を検討する内容とした。特別研修は、市町村からの要望に応じて、館内外で臨時的に実施した。内容は、文化財の保管環境に関する指導やジオラマ作成方法などであった。

市町村の文化財担当職員に対する技術支援は、令和元年度から白河館の業務として新たに追加

となったものである。文化財の保存に関する技術について、市町村等からの要望に応じて、当館職員を現地に派遣して支援を行った。

2. 研修実施状況

(1) 基礎研修

基礎研修に「文化財保護行政実務者研修」と題する課程を設置し、2回開催した。文化財の保護・活用における実務をテーマとし、各参加者が発言可能な懇談形式とした。また、参加者の募集を市町村の文化財担当部局に限定し、公務出張にできるよう開催日を平日に設定した。計38名の参加者があったことから見て、概ね市町村のニーズに合っていたものと判断される。

1) 「第1回文化財保護行政実務者研修」

テーマを「各自治体における悩みを共有し、課題解決への道を探る」とし、アドバイザーとして元福島県教育庁文化財課長・福島県考古学会会長である玉川一郎氏を招いた。当日は、白河館参事兼学芸課長の基調報告の後、事前に各参加者より提出された話題をいくつかのテーマに分け、意見交換を行った。12市町村16名の参加があった。

2) 「第2回文化財保護行政実務者研修」

テーマを「歴史的風致維持向上計画及び歴史文化基本構想の県内先行事例と文化財保護行政の現実的課題」とした。先行事例の報告者として白河市建設部の鈴木功氏、三島町教育委員会の川合正裕氏、大玉村教育委員会の戸田伸夫氏、石川町教育委員会の角田学氏を招いた。事例報告の後には、参加者から各自治体における課題や他の自治体への質問等、様々な意見交換を行った。17市町村22名の参加があった。



第2回文化財保護行政実務者研修

(2) 専門研修

2回の専門研修を実施した。

1) 「文化財保護指導者研修会」

市町村の文化財保護審議委員等を対象に、毎年会場を変えて行う研修会である。令和元年度は、北塩原村を会場として、10月17日・18日に実施した。1日目は、北塩原村教育委員会の布尾和史氏による「柏木城跡の調査と保護―北塩原村の取組み―」、福島県史学会の高橋明氏による「柏木城跡の歴史的経緯」の講義を行った。県教育庁文化財課の岡部睦美氏からは、文化財保護法改定に伴う福島県文化財保存活用大綱の策定状況についての説明が行われた。2日目は、布尾氏の案内で柏木城跡の現地見学を行った。参加者は延べ148名だった。



文化財保護指導者研修会（高橋明氏）

2) 「遺構・遺物の簡易なデジタル実測法」

文化財担当者に対する専門技術の習得を目的とした研修である。募集対象を県内各市町村の

文化財担当部署・博物館・資料館、公社・事業団等において文化財の調査を行う職員とした。当財団遺跡調査部の大網信良（公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センターより出向）と須原拓（公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターより出向）の2名を講師とし、デジタルカメラ撮影画像を利用した遺構・遺物実測について講義を行った。

(3) 特別研修

令和元年度は、臨時館内研修と臨時館外研修を各1回実施した。臨時館内研修は、湯川村教育委員会からの依頼で5月24日に「ジオラマ作成研修」、臨時館外研修は、川俣町教育委員会からの依頼で8月29日に「文化財保管環境研修」を行った。



臨時館外研修「文化財保管環境研修」

文化財研修実施状況

区分	研 修 名	講 師 等	実施日	受講者数	場所
基礎研修	第1回文化財保護行政実務者研修	アドバイザー 玉川一郎（福島県考古学会会長） 基調報告 本間 宏（白河館職員）	令和. 7. 5	16名	白河館
	第2回文化財保護行政実務者研修	事例報告者 鈴木 功（白河市建設部） 川合正裕（三島町教育委員会） 戸田伸夫（大玉村教育委員会） 角田 学（石川町教育委員会）	令和. 8. 9	22名	白河館
専門研修	文化財保護指導者研修会	布尾和史（北塩原村教育委員会） 高橋 明（福島県史学会） 岡部睦美（福島県教育庁文化財課）	令和.10.17 ～ 18	延べ 148名	北塩原村
	遺構・遺物の簡易なデジタル実測法	大網信良（福島県文化振興財団遺跡調査部） 須原 拓（福島県文化振興財団遺跡調査部）	令和. 2. 6	18名	白河館
特別研修	臨時館内研修「ジオラマ作成研修」（湯川村の依頼による）	笠井崇吉（白河館職員）	令和. 5.24	3名	白河館
	臨時館外研修「文化財保管環境研修」（川俣町の依頼による）	中尾真梨子（白河館職員）	令和. 8.29	7名	川俣町

3. 技術支援状況

市町村文化財担当職員への技術支援については、4自治体に対して11回行った。

このうち本宮市（5回）、伊達市（3回）、田村市（2回）への技術支援は、令和元年東日本台風による被災文化財の保全支援であった。

会津坂下町には、考古資料の保管環境等についての技術支援を行った。

技術支援状況

内容	実施日	参加者数	回数
本宮市の被災文化財保全支援	令和10.23～24 令和11. 4 令和12.14 令和2. 2.21	延べ11名	5回
田村市の被災文化財保全支援	令和10.28～29	延べ5名	2回
伊達市の被災文化財保全支援	令和11. 5 令和11.20 令和12.12	延べ6名	3回
会津坂下町の文化財保全支援	令和2. 2.19	1名	1回

7 文化財の活用に関する調査研究

1. 文化財の調査

白河館に収蔵されている資料のうち、土器に付着した黒色付着物を対象として、蛍光X線分析による材質調査を実施した。また、収蔵資料のうち金属質遺物については、X線CT機器を介した構造調査を試験的に実施した。

2. 体験学習における試み

石製模造品づくりや革製品づくりなど考古学や民俗学等の成果を加味し、体験学習メニューを考案、実施した。

3. 文化財等に関する情報収集

（1）研修会等への参加

奈良文化財研究所主催の研修会のほか、日本文化財科学会に参加することにより、最新の情報を収集した。

（2）現地調査の実施

市町村文化財行政の現状と課題を把握するため、現地調査を2回実施した。

4. 研究紀要

「沼沢火山噴火の影響からみる縄文時代前期末葉と中期初頭の遺跡分布」のほか、展示資料

に関する研究、博物館学的な研究などの成果を『研究紀要第18号』に掲載し、発行した。併せてホームページ上でも公開した。

8 出土文化財の保存処理

福島市内にあった施設の老朽化に伴い、令和元年度から、出土品の保存処理等が白河館の業務として新たに追加された。業務の実施場所は、県による改修工事が前年度に実施された白河館体験学習館である。

令和元年度は、福島県教育委員会が実施した発掘調査により出土した木質・金属質遺物等について、劣化防止等業務、保存処理業務、分類・データベース入力業務を実施した。

1. 劣化防止等業務

次の方法により、7,271件の劣化防止措置を行った。

（1）木質遺物

2,089件の劣化防止措置を行った。

水浸保存を図っている木質遺物（以下、水浸け遺物）について、劣化状態等の確認を行い、バクテリア等の劣化を促進させる付着物が発生している遺物については、筆等による除去及び洗浄を行った。洗浄を終えた水浸け遺物は、新たな保存液を入れなおし、可能なかぎり脱気した状態で封入した。

また、水浸け遺物の劣化状態を客観的に把握するため、推定含水率を測定した。

（2）金属質遺物

4,937件の劣化防止措置を行った。

脱酸素剤封入済みの金属質遺物について、遺物の形状変化及び無酸素状態指示剤の変色度合いの確認を行った。無酸素状態指示剤に青色の変色が確認された遺物については、脱酸素剤及び無酸素状態指示剤を交換した。

その他、必要に応じて、腐食（錆）の進行の要因となる付着物（土壌や錆）を除去するクリーニング作業等を行った。

（3）動植物遺存体

木質遺物と同様の判断基準に従い、245件の

劣化防止措置を行った。

劣化状態及び現有数の再確認作業を行い、その結果をもとに台帳整理を行った。

劣化防止措置実施状況

劣化防止数	7,271件
内訳	
木質遺物	2,089件
金属質遺物	4,937件
その他（動植物遺存体）	245件

2. 保存処理業務

130件の保存処理を行った。このうち、白河館の施設・設備で処理を行うことが困難な80件（相馬市古川尻B遺跡他出土木質遺物60件、相馬市高田遺跡他出土金属質遺物20件）については、専門業者に業務を委託した。その他の50件（福島市御山千軒遺跡出土木質遺物12件、相馬市善光寺遺跡他出土金属質遺物38件）については、以下の手順により白河館内で保存処理を行った。

（1）木質遺物

木質遺物の保存処理は、樹種、状態、器種等によって処理方法を変える必要がある。このため、令和元年度の対象遺物については、凍結真空乾燥法で処理可能な資料を選択し、①事前調査②樹種同定③脱鉄④薬剤含浸⑤予備凍結・真空乾燥⑥表面処理⑦記録作成の工程で保存処理を行った。

（2）金属質遺物

金属質遺物は全て青銅製であったため、①事前調査②クリーニング③安定化処理④記録作成の工程で保存処理を行った。

事前調査では、遺物の現状確認のほか、X線透過撮影による構造等調査、蛍光X線分析顕微鏡による定性分析等を行った。

保存処理業務実施状況

保存処理数	130件
内訳	
木質遺物	72件
金属質遺物	58件

3. 分類・データベース入力業務

分類およびデータベース入力業務は、報告書未掲載の鉄製品についての分類データベースを600件入力した。

9 ボランティア活動の支援

1. 募集

令和元年度は、前年度同様、ボランティアを随時募集し、月毎に登録を行った。

申し込み資格は、①平成31年4月1日現在で16歳以上、②無償で活動できる方（保険料は白河館負担）である。

2. 登録

ボランティアの名称を『まほろんボランティア』と呼び、登録形態は「個人登録ボランティア」としている。ボランティアの登録状況は下表のとおりである。

まほろんボランティア登録状況

令和元年度登録者数	33名 (男性17名・女性16名)
内訳	
1. 最年少	17歳
2. 最年長	80歳
3. 平均年齢	54歳 (男性52歳、女57歳) (平成2年3月31日現在)

3. 活動内容

主な活動内容は以下のとおりである。

- 屋内展示、野外展示の案内・解説
- 展示業務への参加
- 体験学習活動（実技講座・団体対応等）への協力
- イベントの自主企画及び運営
- 体験学習器材の製作
- 野外展示施設の火焚き燻蒸

4. 支援体制

白河館のボランティア活動は、昼食や交通費を支給しない無償・無給制を原則としている。しかし、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休憩場所の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。

また、学芸課に3名のボランティア担当者を配置し、スケジュールや活動内容の調整を行っている。意見交換の場として、令和元年度は計8回の会合（まほろんボランティア連絡会）を開催した。



野外展示の火焚き燻蒸

10 その他

1. 年報の発行

平成30年度の館の管理運営実績をまとめた『年報～平成30年度実績～』を作成し、市町村教育委員会や学校等の関係機関に配布した。

2. 運営協議会の開催

館長の諮問機関として、福島県文化財センター白河館運営協議会を組織し、会議を開催した。

なお、令和元年度の委員6名は次のとおり。

- ・藤沼 邦彦：元弘前大学教授、再任
- ・日下部善己：元二本松市立岳下小学校長、再任
- ・平出美穂子：元郡山女子大学准教授、再任
- ・武藤 誠：西白河小中学校長連合協議会長
- ・井上 健一：白河市建設部文化財課長
- ・津久井 賢：国立那須甲子青少年自然の家所長、再任

（1）第1回運営協議会

開催日：令和元年9月7日（土）

場所：白河館講堂

議事

- ・平成30年度白河館の事業実績について
- ・令和元年度白河館の運営状況について
- ・令和2年度白河館の事業について
- ・その他

（2）第2回運営協議会

第2回の開催を令和2年3月6日に予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

3. 博物館実習

県内の大学生や、県内出身者で県外の大学に通う大学生を対象として、館内において博物館実習を行った。

4. 被災ミュージアム再興事業

福島県教育委員会からの委託事業として、被災ミュージアム再興事業を実施した。

原子力災害による避難指示区域内の資料館から白河館仮保管施設に移送された文化財について、資料の修理安定化、データベース入力、応急的劣化防止作業などを実施した。

5. 他機関との連携

自治体・教育普及機関・研究機関等と連携して、以下の事業を実施した。

（1）まほろん移動展の実施

1) 「はま・なか・あいづ再生史―遺跡に残された生活環境再建への足跡―」

内容：浜通り・中通り・会津の3地方の遺跡から、災害からの生活再建の歴史を解説。会期中の6月23日（日）に、一般向けと子供向けの関連講座を計2回開催

会期：令和元年6月7日（金）～7月3日（水）

場所：福島県立図書館

観覧者数：736名



まほろん移動展「はま・なか・あいづ再生史」

2)「大熊の記憶」

内容：ライフミュージアムネットワークスタ
ディツアーへの協力として実施

会期：令和元年11月18日（月）・19日（火）

場所：大熊町役場新庁舎

観覧者数：125名

3)「郷土史を愛する心ー山内幹夫コレクション展ー」

内容：楡葉町馬場前遺跡で採集された資料の
展示

会期：令和2年1月23日（木）～2月3日
（月）

場所：楡葉町コミュニティーセンター

観覧者数：200名

（2）福島県立図書館との連携

内容：移動図書館（あづま号）コーナー設置及
び企画展関連図書の展示

実施日：令和2年2月16日（日）「まほろん冬
まつり」

場所：白河館正面玄関前

（3）ふくしま海洋科学館との連携

内容：移動水族館（アクアラバン）開催

実施日：令和元年11月2日（土）・3日（日）

「まほろん感謝デー」

場所：白河館正面玄関前

観覧者数：641名



移動水族館（アクアラバン）

（4）博物館活動の連携

日本博物館協会の加盟館として、ICOM KYOTO
2019（第25回国際博物館会議京都大会）に伴
うカンファレンスツアーの受け入れに協力した。

実施日：令和元年9月8日（日）

場所：白河館

参加者：10か国20名

（5）生涯学習行事への出席

生涯学習施設や地元機関等が主催する行事に
職員が出向き、収蔵資料等を活用したミニ展示
や体験学習を行うプログラムを実施。令和元年
度は5か所で実施し、2,483名が参加した。

1) いなわしろフェスティバル春

実施日：令和元年6月2日（日）

会場：猪苗代町・国立磐梯青少年交流の家

参加者数：192名

2) 夏休みキッズワールド

実施日：令和元年8月6日（火）・7日（水）

会場：郡山市・うすい百貨店

参加者数：59名

3) なすかしファミリーフェスティバル

実施日：令和元年10月6日（日）

会場：西郷村・国立那須甲子青少年自然の家

参加者数：141名

4) 大玉村文化祭

実施日：令和元年10月19日（土）

会場：大玉村・あだたらふるさとホール

参加者数：168名

5) なすビジ秋まつり

実施日：令和元年11月16日（土）・17日（日）

会場：栃木県那須町・那須高原ビジターセン
ター

参加者数：1,923名

（6）その他

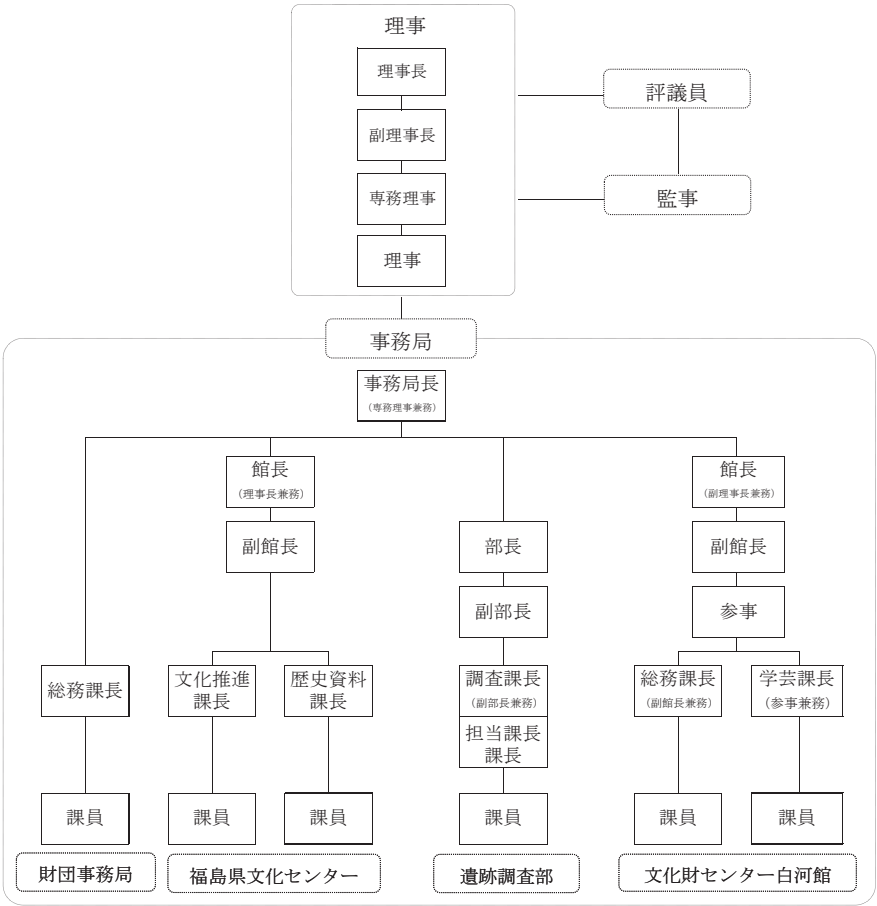
1) 中学校・高等学校計3校、計7名の生徒を
受け入れ、職業体験実習を実施した。

2) 福島県被災文化財等救援本部の一員として、
設置要項の改訂等を行った。また、福島県教
育庁・ふくしま歴史資料保存ネットワーク事
務局等と共に、台風19号により被災した文
化財等の保全活動を実施した。

3) 白河市観光物産協会やNPO法人カルチャー
ネットワーク等と連携して白河館の情報を発
信した。

第3章 令和元年度の組織と管理運営費

1 組織



職員名簿

職 名		氏 名	職 名		氏 名
館 長		菊 池 徹 夫	学芸課	専門学芸員	門 脇 秀 典
副 館 長		鵜 澤 義 孝		専門学芸員	笠 井 崇 吉
参 事		本 間 宏		専門学芸員	三 浦 武 司
総務課	課長（兼務）	鵜 澤 義 孝		主任学芸員	廣 川 紀 子
	主 幹	山 田 幸 則		副主任学芸員	鶴 見 諒 平
	主 査	八 巻 裕美子		副主任学芸員	中 尾 真梨子
	臨時職員	金 澤 明 希		学芸員	和 知 千 紘
	臨時職員	長 田 ちひろ		学芸員	河 西 久 子
	臨時職員	沼 田 紗 貴		学芸員	武 熊 野の香
学芸課	課長（参事兼務）	本 間 宏		学芸員	岸 浪 文 香
	主 幹	佐々木 慎 一		臨時職員	佐 藤 百合恵
	副主幹	山 元 出		臨時職員	原 宏 子
	副主幹	阿 部 知 己		臨時職員	松 浦 里 美
	専門学芸員	大 山 孝 正		臨時職員	鈴 木 未 来
				職員総数 26 名	

(令和2年3月31日現在)

2 白河館管理運営費

・ 指定管理者委託料 272,659千円

第4章 白河館施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館

(愛称：まほろん)

所在地：〒961-0835

福島県白河市白坂字一里段86番地

設置者：福島県

開館：平成13年7月15日

管理機関：公益財団法人福島県文化振興財団

◎建築概要

1. 敷地面積：51,827.51㎡
2. 建築面積：本館・収蔵庫棟 5,866.328㎡
体験学習館 133.627㎡
3. 延床面積：本館・収蔵庫棟 5,399.815㎡
(本館2,400.046㎡、収蔵庫棟 2,999.769㎡)
体験学習館 92.71㎡
4. 構造
 - ①本館棟 鉄筋コンクリート造
 - ②収蔵庫棟 鉄骨造
 - ③体験学習館 木造
5. 駐車台数等
 - ①一般駐車場 91台(うち身障者用4台)
 - ②大型車駐車場 10台
 - ③職員駐車場 21台
 - ④駐輪場 28台
6. 地域地区：都市計画区域内、無指定

◎設備概要

1. 電気設備：
 - ・受電方式／高圧6.6KV 1回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電50KVA
 - ・非常照明設備：建築基準法に基づいて設置
 - ・放送設備：非常放送と兼用、出力240W
 - ・電気時計設備、テレビ共同視聴設備、インターホン設備
 - ・電話設備：電子交換機、外線4回線
 - ・監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停制御及び計測監視

2. 空調設備

・空調方式

一般系統／ガスエンジン空冷HPマルチパッケージ方式(一部空冷HP)＋静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト(空冷冷専パッケージ＋電気ヒーター＋アルカリ除去フィルターユニット)方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト(ガスエンジンHPP)方式

・熱源：簡易ガス(ガス種別：プロパン)

3. 衛生設備

- ・給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水：屋内分流・屋外合流(最終桝でポンプアップ)方式で下水道本管へ放流
- ・雨水：側溝放流
- ・多目的便所：屋内1箇所(男女別)、屋外1箇所(男女別)、トイレ呼出設備付

◎建築工事工期

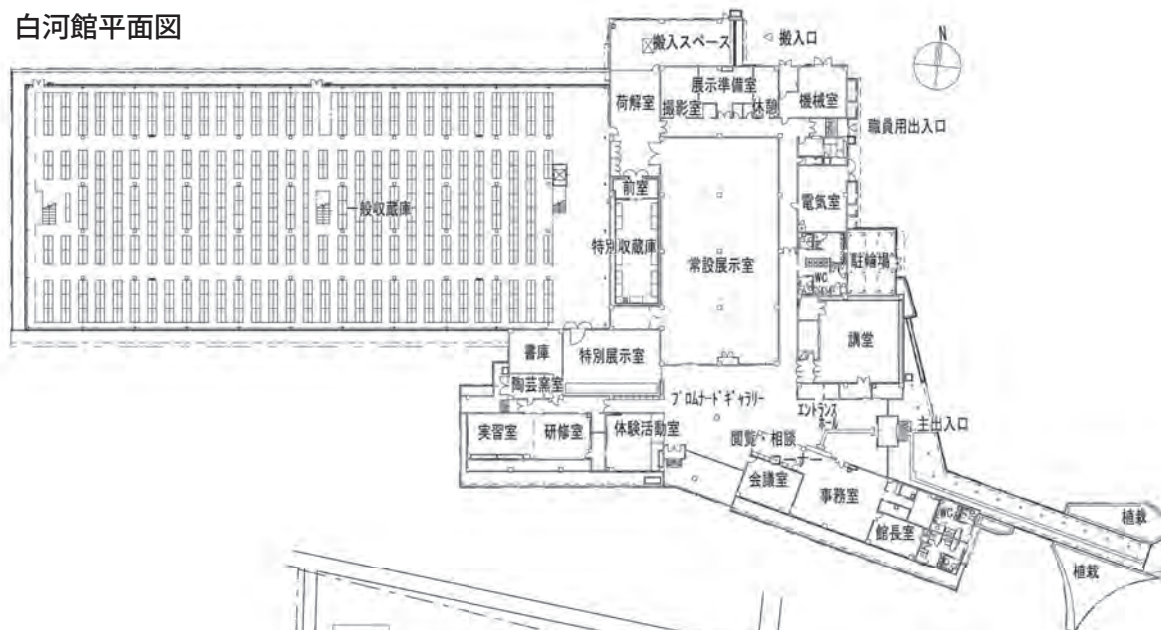
- ・着工：平成11年7月12日
- ・完成：平成12年10月16日

◎総建設費 3,300,625千円

- ・内訳

建築費	2,690,848千円
公有財産購入費	222,095千円
その他の経費	387,682千円

白河館平面図



白河館配置図



主要諸室面積表 (㎡)

室 名	面積	備 考	室 名	面積	備 考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚2層目部分2,263㎡
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合 計	5,400	
印刷室	16		体験学習館	93	
救護室	9		仮保管施設	889	5棟 (194㎡×4棟+113㎡)

第5章 白河館の条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日 福島県条例第43号)

(設置)

第一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第二条 白河館は、白河市白坂字一里段八十六番地に置く。

(平一八条例五一・一部改正)

(業務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。
一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。

二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。

三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。

四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。

五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。

六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。

七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(指定管理者による管理)

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例(平成十六年福島県条例第六十八号)の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(平一七条例一〇七・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲等)

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

一 第三条各号に掲げる業務に関すること。

二 白河館の維持管理に関すること。

三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。

2 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。

3 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報(個人に関する情報であって、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。)その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

(平一七条例一〇七・追加)

(遵守事項)

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。

二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わないこと。

五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(平一七条例一〇七・旧第四条繰下)

(入館の規制等)

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

一 前条の規定に違反した者

二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者

三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(平一七条例一〇七・旧第五条繰下・一部改正)

(使用料の不徴収)

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

(平一七条例一〇七・旧第六条繰下)

(委任)

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平一七条例一〇七・旧第八条繰下)

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行)

附 則(平成一七条例一〇七号)

1 この条例は、平成一八年四月一日から施行する。

2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手続は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

附 則(平成一八条例第五一号)

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(平成13年3月27日 福島県教育委員会規則第3号)

(休館日)

第一条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和二十三年法律第七十八号)第三条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者(福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(開館時間)

第二条 白河館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時までとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育長の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(文化財等の特別利用)

第三条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委 任)

第四条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成十三年福島県条例第四十三号）の施行の日から施行する。（施行の日＝平成一三年七月一五日）

附 則（平成一七年教委規則第一六号）

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

白河館の利用案内

開館時間 ・ 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休 館 日 ・ 毎週月曜日（国民の祝日・振替休日の場合はその翌日）
・ 国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）
・ 年末年始（12月28日～1月4日）

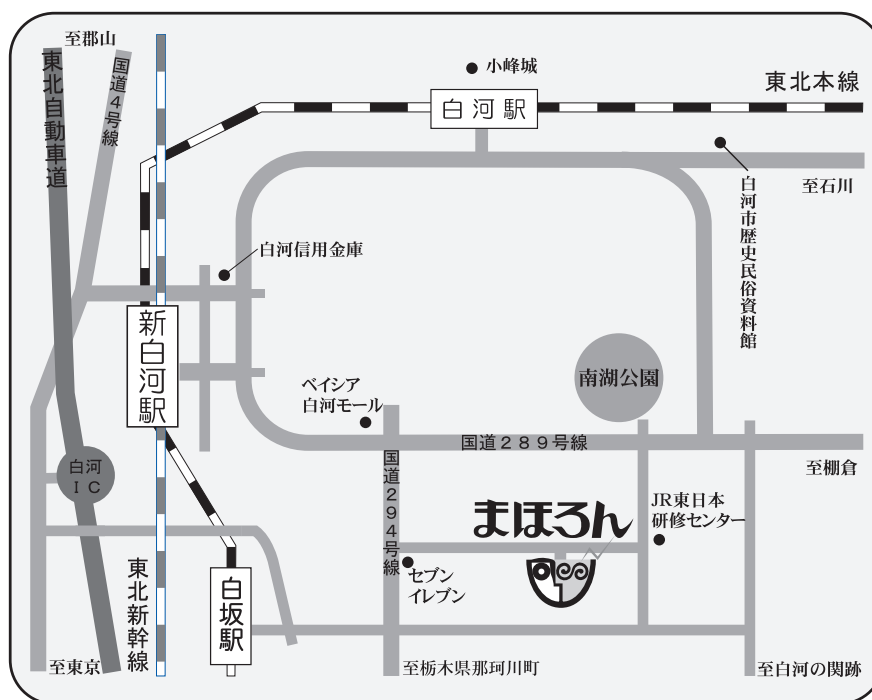
入 館 料 ・ 無料

交通案内 ・ J R 東北本線白河駅、J R 東北新幹線新白河駅から白河市循環バスまたは、福島交通バス（白坂・白坂駅行き）まほろんバス停下車

・ J R 東北本線白河駅、J R 東北新幹線新白河駅から J R バス（棚倉行き）南湖公園バス停下車徒歩25分

・ 東北自動車道白河ICから車で20分

そ の 他 ・ 屋内、屋外に多目的トイレを備えています。車いす、ベビーカーも用意しています。



福島県文化財センター白河館 年報 ～令和元年度実績～

令和 2 年 1 2 月 2 7 日発行

編集・発行 公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館
〒 961-0835 福島県白河市白坂一里段 86 番地
TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075
<https://www.fcp.or.jp/mahoron/>
